

2018 年度 豊岡市環境報告書
コウノトリと暮らす豊岡の環境



▲伊豆の人工巣塔と田植え（2018年6月撮影）

2019年12月
豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

******* 目次 *******

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について (P1~4)

第2部 「目標とする姿」への取組み状況 (P5~40)

第3部 豊岡市の環境の状況 (P41~50)

第4部 市の取組み実績 (P51~68)

**第5部 環境審議会意見の反映状況(市の取組み)
(P69~74)**

**第6部 2018年度の環境に関する取組みについて
豊岡市環境審議会の意見(今後の取組みに向けて) (P75~78)**

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について

■豊岡市環境基本計画について

2016(平成28)年度に見直しを行い、第2次環境基本計画を策定しました。

第2次環境基本計画の体系図は、次頁のとおりです。計画の基本理念・基本方針をもとに、10年後に到達すべき10個の「目標とする姿」を描き、それを実現するための具体的な方向性と行動指針を定めています。

■環境報告書について

この「豊岡市環境報告書」は、「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」に基づき、毎年、環境の状況や計画の取組み状況等について、豊岡市環境審議会の意見を付して公表するものです。

今回の環境報告書の取りまとめにあたっては、第2次環境基本計画の10個の「目標とする姿」への達成状況を、それぞれ「よくがんばりました」・「この調子でがんばろう」・「もっとがんばろう」の3段階で評価しました。

豊岡市環境基本計画の体系

■基本理念（第2章）

計画を進めるにあたっての基本的な考え方は次のとおりです。

- 1 豊岡に住み、豊岡を訪れるすべての者が当たり前のこととして、人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい行動をとります。
- 2 良好な環境は先人から受け継いだものであることを認識し、次の世代に引き継ぎます。
- 3 地域ごとに異なる環境に応じ、地域の個性を生かして取り組みます。

私たちは、次の六つの合言葉をいつも気にしながら行動します。

「もったいない」「ちょっとでも」「ばちがあたる」
「心地よい」「つなぐ」「自信・誇り」

■基本方針（第2章）

基本理念をもとに、みんなで取り組みを進めるための基本方針。

- 1 自然・文化・歴史的資源の理解と保全
- 2 人と生きものがバランスよく共生するまちづくり
- 3 資源の無駄遣いをなくす循環型のまちづくり
- 4 環境意識を高める環境にやさしい人づくり
- 5 環境行動を持続的にする取り組み
- 6 地球環境の保全に貢献

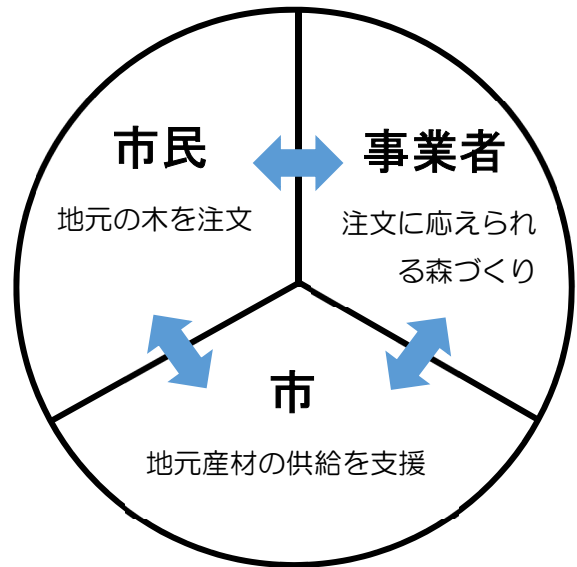
■目標とする姿（第3章）

長期的な視点のもと、みんなで取り組みを進めて10年後に到達すべき目標像。

- ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます
- ② 里山が様々に利用され、関わる人が増えています
- ③ 使われていない農地の利用が進み、生き物の豊かな田んぼが増えています
- ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声が聞こえてきます
- ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています
- ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています
- ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています
- ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています
- ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています
- ⑩ 環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【注釈】 第2次豊岡市環境基本計画は、2017（平成29）年度から10年間の計画です。
「目標とする姿」は、2027年度の豊岡市の姿を想定しています。

取組みの方向(下記)に掲げる一つひとつの課題に関して、市民、事業者、市が連携してみんなで取り組みます。



【来訪者に求めること】

来訪者にも豊岡に滞在中は、市民等と同様に、環境を良くするための行動を求めます。

■取組みの方向（第5章）

「目標とする姿」を実現するため、市民・事業者と市が、みんなで協力して取組みを進めていく方向を示す。

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

関連する目標像

(目標像①～⑩)

- 1…①②⑤⑦⑩
- 2…④⑤⑦⑧⑩
- 3…②③④⑤⑦⑩
- 4…①②③⑤⑦⑩
- 5…①②③④⑤⑦⑩
- 6…①⑧⑨
- 7…④⑤⑥
- 8…④⑤⑥⑦
- 9…①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 10…③⑤⑦⑩
- 11…④⑧
- 12…⑧⑨
- 13…②③⑩
- 14…③⑤⑦⑩

第2部 「目標とする姿」への取組み状況

■取組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、2018年度を含む「主な指標の変化」(2007年度～)と2018年度の特徴的なトピックを掲載し、現時点での取組み状況の評価を行っています。

■目標とする姿（第3章）

- | | |
|--|---------|
| ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます | ・・・p.7 |
| ② 里山が様々に利用され、関わる人が増えています | ・・・p.10 |
| ③ 使われていない農地の利用が進み、生き物の豊かな田んぼが増えています | ・・・p.13 |
| ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます | ・・・p.17 |
| ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています | ・・・p.20 |
| ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています | ・・・p.22 |
| ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています | ・・・p.28 |
| ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、
1人あたりの排出量が徐々に減っています | ・・・p.31 |
| ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、
再生可能エネルギーの利用も増えています | ・・・p.34 |
| ⑩ 環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています | ・・・p.38 |

■取組みの方向

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

目標像①

手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【主な取組みの方向】

(1) (4) (5) (6) (9)

【具体イメージ】

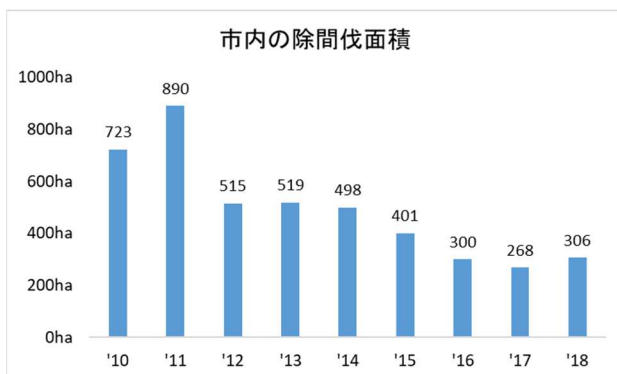
スギやヒノキの林は保育され、広葉樹も植えられています／木材の利用が増えています／ペレットストーブなどの利用が家庭や事業所に広がっています

1 主な指標の変化(2007～2018年度)

(1) 除間伐と植樹



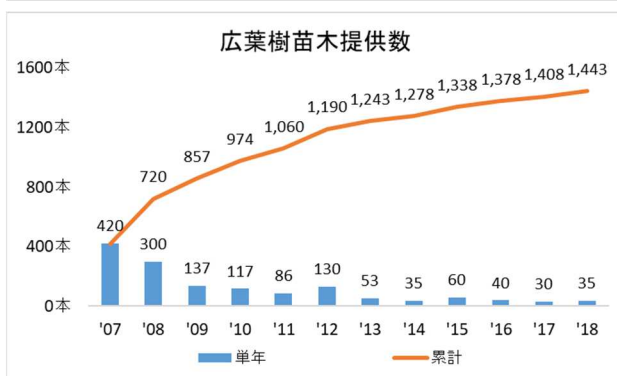
・豊かな森林を育てるため、太陽の光が木の根元や地面まで十分に届く環境をつくる「除間伐」を行っています。



・市・公社・民間等の分収造林全てを含みます。

【分収造林】

土地所有者と分収契約を結び、民有林野に対して造林を行い、その収益を土地所有者と分収するもの



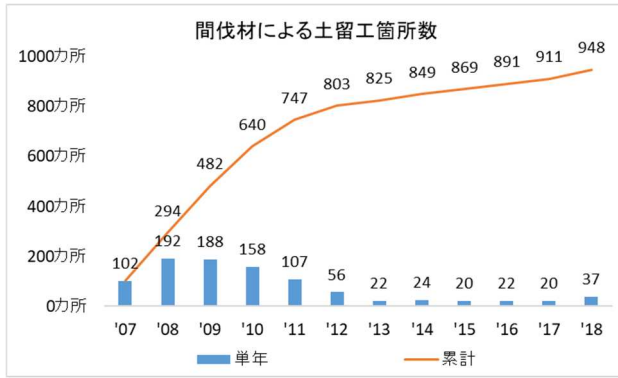
・針広混交林化に向けて、広葉樹の植樹を進めています。落葉等で土壌が肥沃になるとともに、下層植生の成長を促し、土壌浸食等の防災効果が高まることが期待されます。

《所有別森林面積》 (2016年3月31日現在)

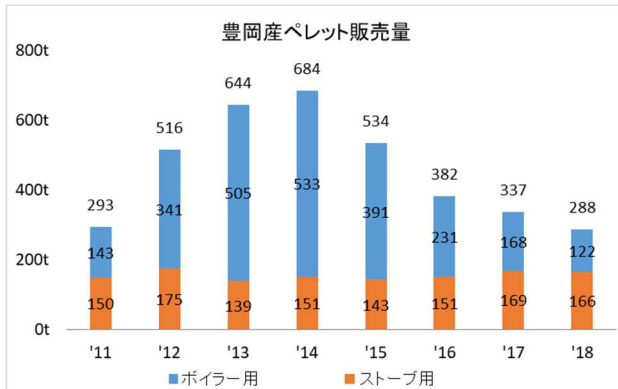
区分	面積	割合
公有林	3,501ha	6.42%
私有林	51,036ha	93.58%
合計	54,537ha	100.00%

資料：兵庫県森林GISシステム

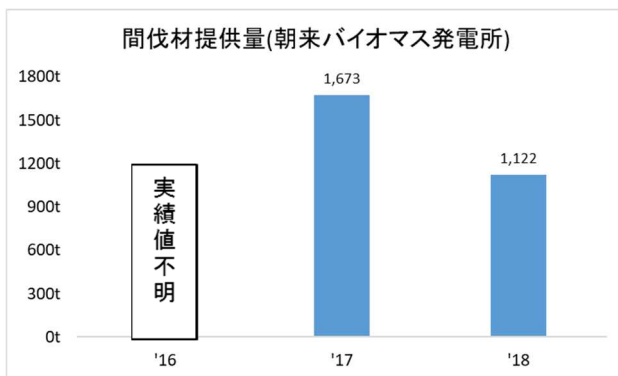
(2) 間伐材の利用



- ・間伐材をそのまま地滑り防止に活用する「土留工」を行っています。

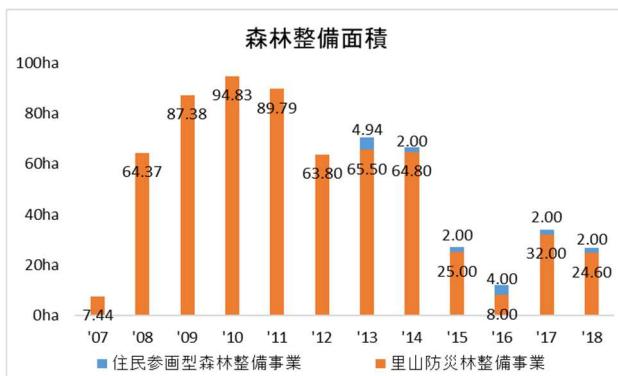


- ・間伐材を搬出して、ペレットを製造・販売しています。自然エネルギーとしての利活用を進めています。
- ・バイオマス発電所の始動で、間伐材利用の軸がペレット製造から発電所での利用に変わりつつあります。
- ・2019年3月議会で、間伐未利用材等の利用方法をペレット原料から朝来バイオマス発電所への供給に切り替えることが発表されました。



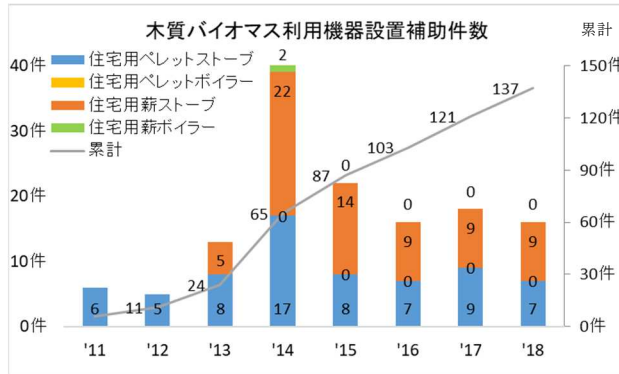
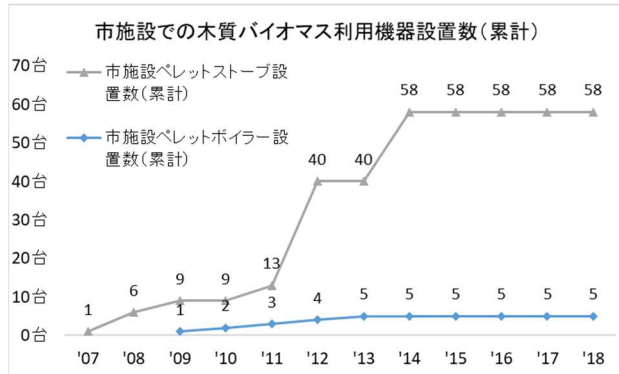
- ・2016年12月、朝来市生野町のバイオマス発電所が運転を開始し、北但東部森林組合から搬出された原木やチップが、朝来市の「バイオマスエネルギー材供給センター」を通じて、朝来バイオマス発電所に供給されています。

(3) 森林の整備



- ・住民参加型森林整備事業は、竹林・枯れ松・危険木伐採等により、集落の安全を確保する1カ年事業です(事業主体：兵庫県)。
- ・里山防災林整備事業は、人家裏山の凹型斜面の崩壊を防ぐため、危険木伐採や簡易防災施設(丸太柵工等)整備を行います。2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します(事業主体：兵庫県)。

(4) 木質バイオマス機器の利用



・木質バイオマス(薪、木質ペレット)を燃料に利用するストーブ・ボイラーの利用促進を進めています。「住宅用」には事業所も含まれます。

間伐材を活用した鋼製漁礁

Topics

国庫補助事業を活用して間伐材を活用した人工漁礁を竹野沖に設置しました。

竹野沖の人工漁礁は、海中に沈められた人工物で、魚類のすみかになります。漁礁に市行造林の間伐材を使うことで、魚類の餌になるフナクイムシなどが発生し、短期的に多くの魚類を集める効果があります。市内の森林から間伐材を搬出しており、山と海の保全を同時に進めています。



2 2018 年度評価

評価

- 住宅への木質バイオマス利用機器の設置が広がりつつある。
- ▲間伐材を利用したペレットの販売量が伸び悩んでいる。
- ▲バイオマス発電所への間伐材提供が減少している。

もっと
がんばろう

目標像②

里山が様々な利用され、関わる人が増えています

【主な取組みの方向】

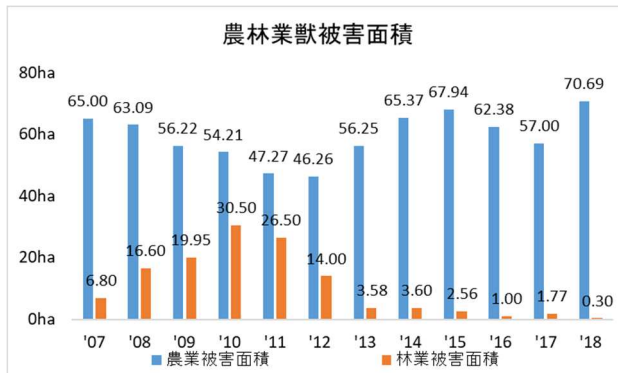
(1) (3) (4) (5) (9)
(13)

【具体イメージ】

安心して散策を楽しめる里山が増えています／食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています／森林ツーリズムなどを楽しむために森に入る人が増えています／イノシシやシカは適切に駆除され、肉や皮も多様に活用されています

1 主な指標の変化(2007～2018年度)

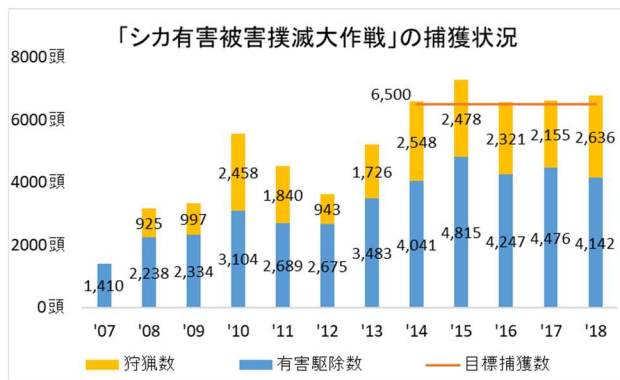
(1) 有害鳥獣対策



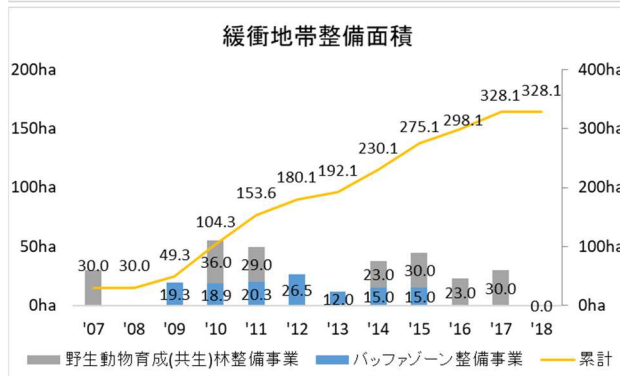
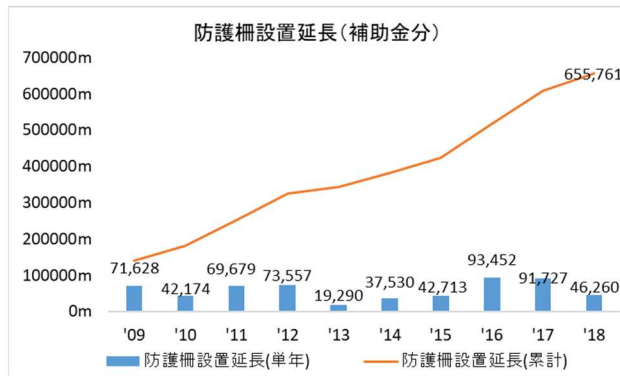
- ・林業被害のほとんどはシカによるものです。
- ・農業被害は、シカやイノシシの他にサルなどの小動物によるものもあります。
- ・山奥から人里近くに被害が広がってきています。



- ・「有害獣駆除数」グラフは、有害鳥獣駆除のみの数値で、11月から3月までの狩猟期に個人が捕獲したものは含まれていません。
- ・「その他有害駆除数」には、タヌキやアライグマ、ヌートリア、カワウなどが含まれます。



- ・市では、2014年から年間捕獲数6,500頭を目標に、「シカ有害被害撲滅大作戦」を実施しています。
- ・「狩猟数」は、狩猟期(11月～3月)に個人が捕獲した頭数。
- ・「有害駆除数」は、一般、専任班、捕獲実施隊(市鳥獣害対策員と市担当者で編成)が、有害獣として捕獲・駆除した頭数。



- ・このグラフの緩衝地帯(バッファゾーン)は、野生動物との住み分けを図るため設けられる、幅約20m程度の見通しの良い地帯を言います。
- ・バッファゾーン整備事業は2009～2015年度まで実施(実施主体：豊岡市)。
- ・野生動物育成(共生)林整備事業は、緩衝地帯と集落防護柵を一体整備する2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します(事業主体：兵庫県)。
- ・2018年度は調査のため実績値がありません。

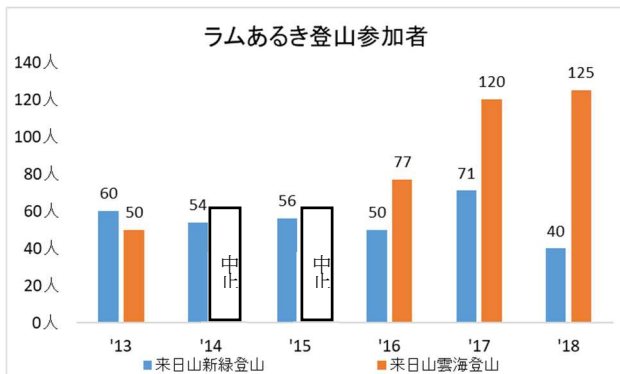
(2) 森林公園の利用



- ・竹野南森林公園では、年7回、季節に合わせた体験教室を実施しています。



(3) 森林ツーリズム



- ・2012年に「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約に登録され、翌年から来日山の山頂からラムサール条約湿地を眺めるイベントを、5月と10月に実施しています。
- ・2018年、ラムサール条約湿地が拡張されました。(詳細は p. 21 に記載)

Topics

神鍋溶岩流ウォーキング

ユネスコ世界ジオパークに認定されている「山陰海岸ジオパーク」。そのほぼ中心に位置する神鍋高原・神鍋火山では、毎年4月に、神鍋溶岩流の景観美を楽しむイベント「神鍋溶岩流ウォーキング」が開催されています。2018年度は、275人が参加しました。

神鍋溶岩流は約2万2千年前の神鍋山の噴火活動で流出した溶岩が固まり、長い年月をかけて浸食され、現在の稲葉川の美しい景観を形成しました。

ルンルン溶岩流コース(5km)と健脚満足コース(11km)の二つあり、人工的に作り出せない美しい景色や歴史などを自分にあったペースで楽しめます。



2 2018年度評価

評価

- ラムあるきが登山イベントとして浸透している。
- シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数 6,500 頭を達成している。
- ▲有害獣の駆除や防護柵の設置、緩衝地帯の整備は進んでいるが、農林業被害額は増加している。

この調子で
がんばろう

目標像③

使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【主な取組みの方向】

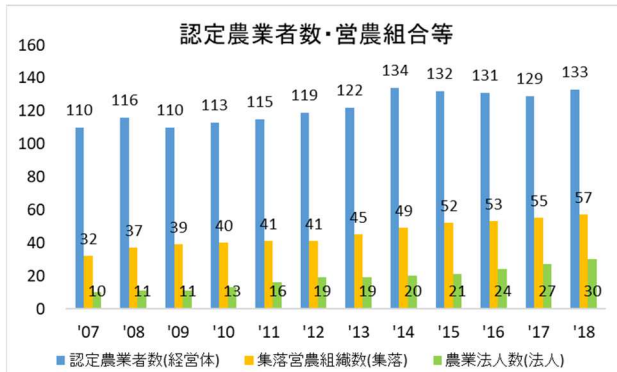
(3) (4) (5) (9) (10)
(13)

【具体イメージ】

農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっています／就農する若い人が増えています／学校や家庭の食卓に豊岡でとれた安全安心な食材が並んでいます／多様な生きものと触れ合う子どもの姿をよく見かけます／ビオトープ水田など様々な使われ方で農地が活かされています

1 主な指標の変化(2007～2018年度)

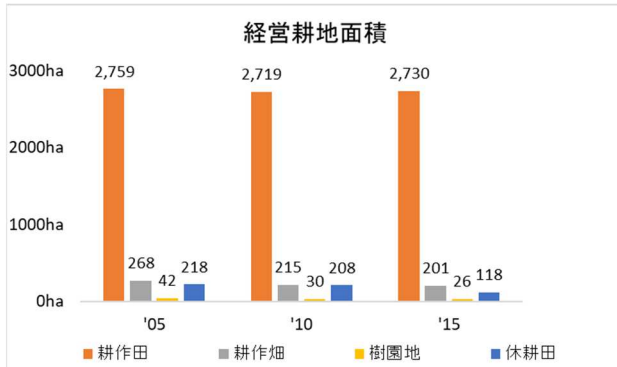
(1) 豊岡の農業の現状



・就農者の高齢化・減少が進む中で大規模集約化の方向にあります。

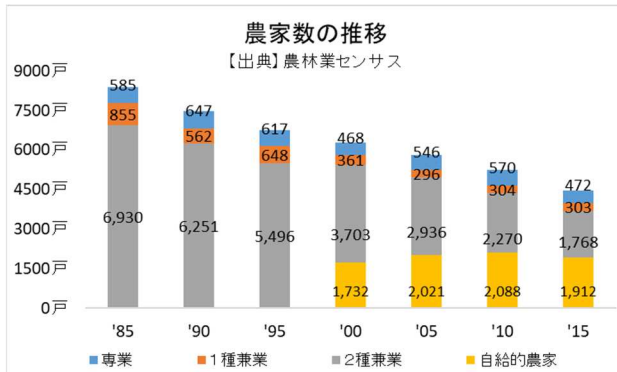
【認定農業者】

農業経営改善計画を市町村に提出し、認定を受けた農業経営者・農業生産法人



【経営耕地面積】

農家が経営する耕地の面積



・2000年以降の専業・兼業農家は「販売農家」に限られ、自給的農家の専兼業別調査が簡素化されました。

【第1種兼業農家】

農業所得を主とする兼業農家

【第2種兼業農家】

農業所得を従とする兼業農家

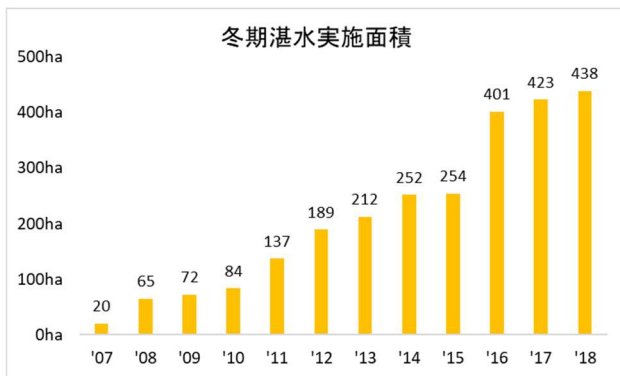
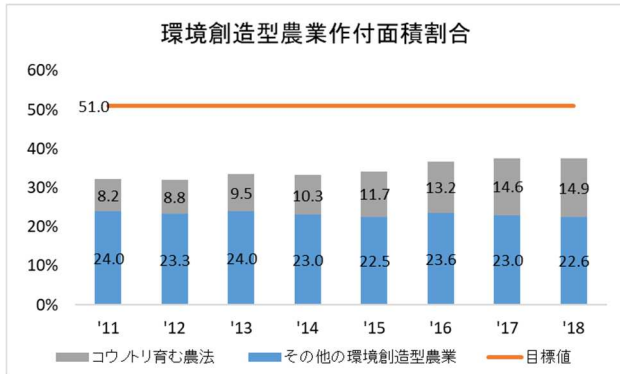
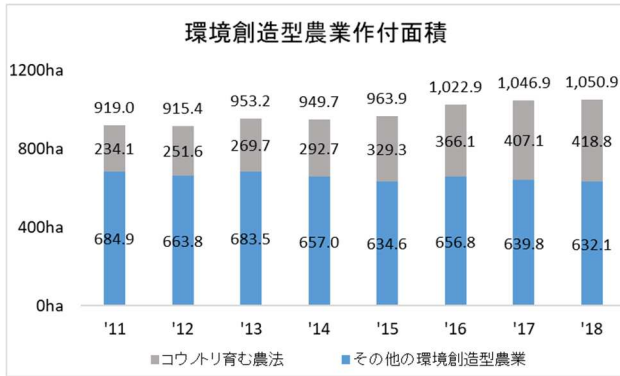
【販売農家】

経営耕地面積が30a以上または農産物販売金額が50万円以上の農家

【自給的農家】

経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家

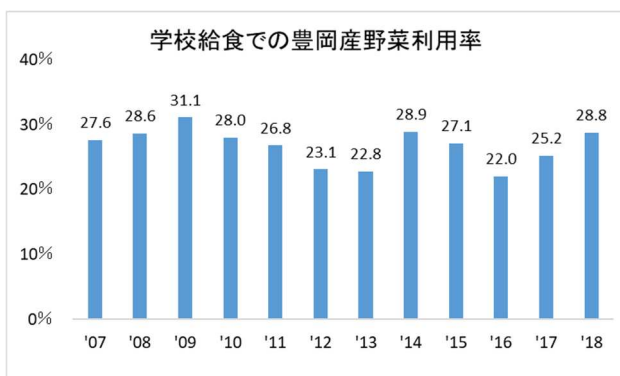
(2) 環境にやさしい農業



・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、新たな栽培方策を導入するなどして、「豊岡型環境創造型農業」〔農薬・化学肥料50%以上減(慣行農法比)〕の普及拡大を図っています。

・冬期湛水は、冬にも田んぼに水を張ることです。生きものが豊かになり肥料分を含むトロトロ層(2~5cm)ができることで雑草の種子が発芽しにくく、抑草効果もあります。

(3) 学校給食への利用

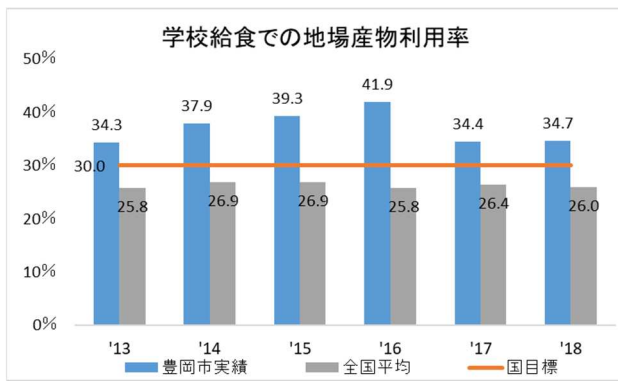


・豊岡産野菜は、「国民健康・栄養調査(厚生労働省)」の野菜の定義に則っています。いも類、果実類、きのこ類は含まれません。

・利用率は重量で計算しています。

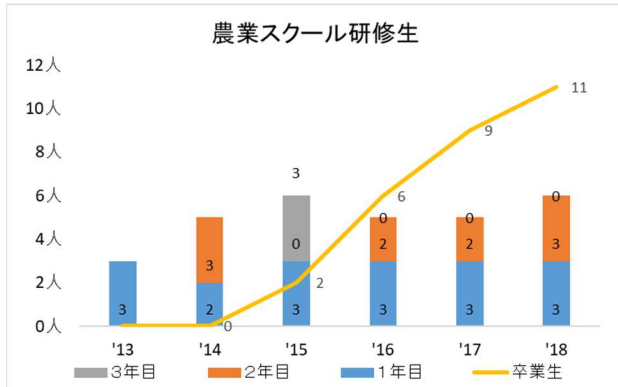
・地元生産者がピーマンなどを寄付する、児童たちが自分たちで作った野菜を調理して食べるなどの取組みも行われています。

・2016年度から、週5回全ての米飯給食でコウノトリ育むお米(減農薬)を利用しています。



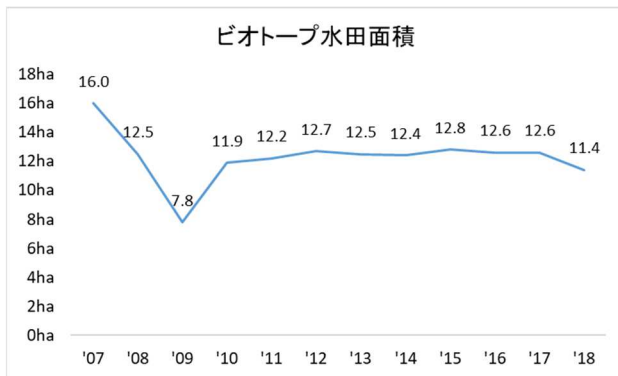
- ・農林水産省の「第3次食育推進基本計画」で学校給食における地場産物を使用する割合30%以上を目標にしています。
- ・地場産物は県内産食材を指します。
- ・利用率は品目数で計算しています。
- ・この調査は、6月・11月のそれぞれ5日間を対象に行われています。

(4) 農業スクール研修生



- ・新規就農希望者が、就農に必要な農業生産技術と経営管理能力の習得を目指し、1年間(更新で最長3年間)学びます。
- ・卒業生は、雇用就農、独立自営就農とそれぞれ市内で就農しています。

(5) 休耕田の利活用



- ・多様な生きものを育む「ビオトープ(生きものがすむ場所)水田」としての管理委託を行っています。
- ・ビオトープ水田から田んぼに復田することもあります。
- ・小学校区ごとの面積は、目標像⑦(p. 30)に掲載しています。

コウノトリ育む農法に取り組む 生産者の声 成田市雄さん

日本の米作りは、3000年ほど前にはじまりましたが、80年くらい前から農薬や化学肥料を使い始め、今では使うことが普通になりました。裏を返せば、昔は無農薬で米を作っていたんだから、農薬を使わなくても米作りはできるはずですよ。

私は、2002年に始まった実証試験栽培からコウノトリ育む農法の米作りに取り組みました。無農薬で米作りをしてみても、除草剤を入れると稲が弱って化学肥料が必要になることや田んぼの雑草はトラクターで浅くかき回せばそのまま枯れることなどが分かりました。

コウノトリ育む農法のお米は、コウノトリ野生復帰の取組みに共感し、応援してくれる人が高く買ってくれるので儲かります。なにより自分の子どもや孫にコウノトリ育む農法で作った安全安心なお米を食べて健康でいてほしいので、頑張って無農薬で米作りをしています。



2 2018年度評価

評価

- 環境創造型農業の作付面積は引き続き増加している。
- 冬期湛水を行う水田が増えている。
- 集落営農が増えて、農業スクールの卒業生が豊岡で就農するなど、持続可能な農業の担い手が増えつつある。



目標像④

あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【主な取組みの方向】

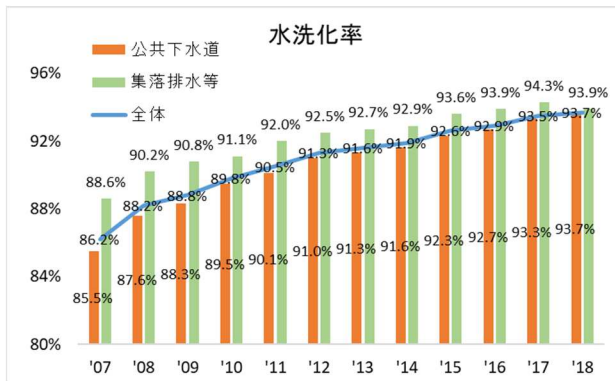
(2) (3) (5) (8) (9)
(11)

【具体イメージ】

市民みんなの協力で川や海がきれいになりました／ポイ捨てをしないという意識が高まり水辺のごみが少なくなっています／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちが日常的に魚をとったり水辺で遊ぶ姿を見かけています

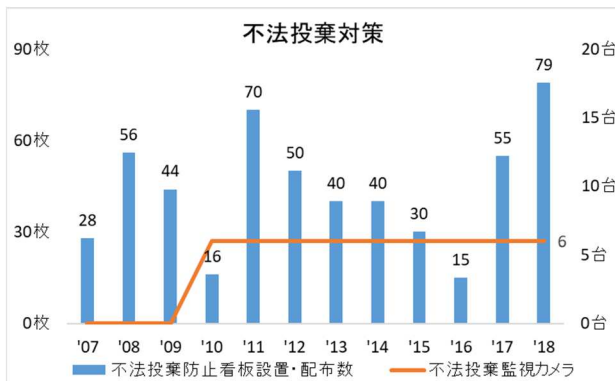
1 主な指標の変化(2007～2018年度)

(1) 川の水質保全



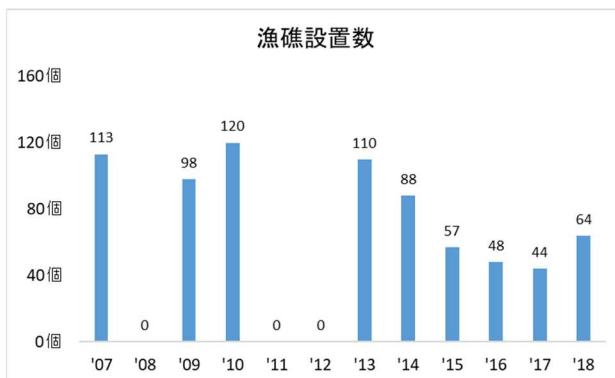
- ・河川の水質浄化につながる「水質化率」は、95%を目標にしています。

(2) 不法投棄対策

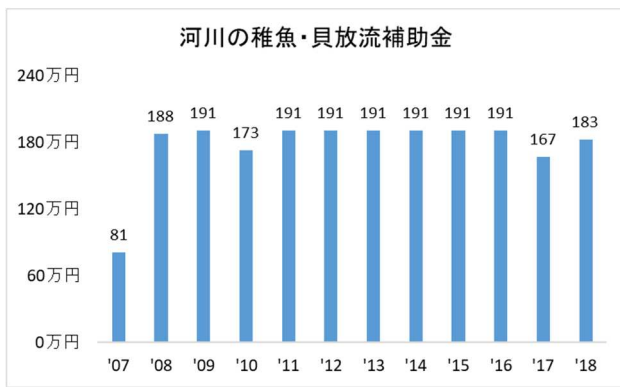


- ・不法投棄防止看板や監視カメラを河川敷や山などに設置しています。
- ・家庭ごみから自転車まで、さまざまなごみが河川敷に捨てられています。

(3) 水産資源保全

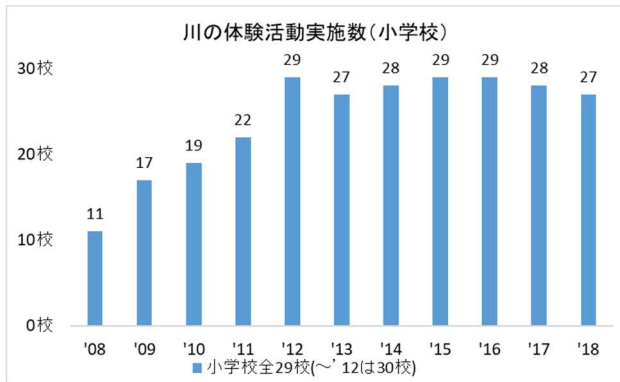


- ・漁礁は、魚類の繁殖と生活のために人為的に海中など水中に設置される、魚類のすみか(巣)や集まる場となるものです。



・円山川漁業協同組合(アユ、ハマグリ)と竹野川漁業協同組合(アユ、アマゴ)に補助をしています。

(4) 子どもたちの体験活動等



・2007年度に兵庫県下で「環境体験学習(小学校3年生対象)」が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。

(5) 清掃活動

川沿いや海水浴場のある浜などで、地域住民やボランティアなどによる清掃活動が行われています。

<主な活動>

川清掃

清掃場所	活動主体	活動日
円山川河川敷	円山川菜の花の会	4月30日(月・祝)
円山川(ボート使用)	円山川城崎ボート協会	3月16日(土)

浜清掃

清掃場所	活動主体	活動日/活動頻度
気比の浜・田結の浜	港中学校・港西小学校・港東小学校・港認定こども園	6月30日(土)
竹野海岸	竹野海岸ボランティアクラブ	毎月

上記の他に、但馬漁協津居山支所の婦人部による港清掃、田結・気比の高年クラブによる浜の草刈りなども行われています。

また、兵庫県建設業協会豊岡支部では、クリーン但馬10万人大作戦で出たごみ回収作業や円山川清掃活動が行われています。

ボート日本代表合宿 &城崎中学校ボート部への指導

2018年4月9日から28日まで、円山川城崎漕艇場で、ボート競技日本代表選手の合宿が行われました。東京2020オリンピックでのメダル獲得に向けた強化合宿の一つとしての実施です。

円山川は、勾配が緩やかで川幅は広く、カーブを描き、トレーニング環境として高い評価を受けています。

19日には、選手たちが城崎中学校ボート部を訪問。エルゴメーター(※)で練習する部員の動きをチェックしながら、アドバイスをを行い、手本を見せて指導しました。



2019年3月23日開幕の「全国中学校選抜ボート大会」では、創部以来過去最多、4名もの選手が出場権を得るなど、練習の成果が発揮されました。

※ 水上での動きを陸上で再現し、漕手の漕力を測定するための器具

2 2018年度評価

評価

○川や海岸を清掃するボランティア活動が市内各所で継続的に行われている。

▲大雨の後、河川敷の葦や刈り草などが海に流れている。

▲不法投棄を減らすための対策を講じているが、状況は改善していない。

もっと
がんばろう

目標像⑤

コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【主な取組みの方向】

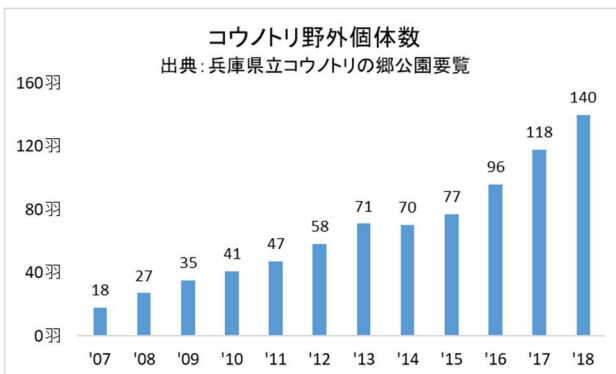
(1) (2) (3) (4) (5)
(7) (8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

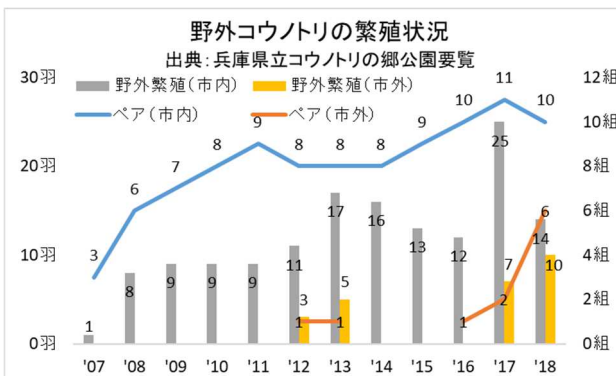
コウノトリ育む農法や市民に守られた湿地が市内全域に広がっています／コウノトリのエサになる生きものが増え、生態系のバランスが保たれています／コウノトリが市内各地に舞い降りています／コウノトリも住める豊かな環境づくりの取組みがさらに進んでいます

1 主な指標の変化(2007～2018年度)

(1) 野外のコウノトリの状況

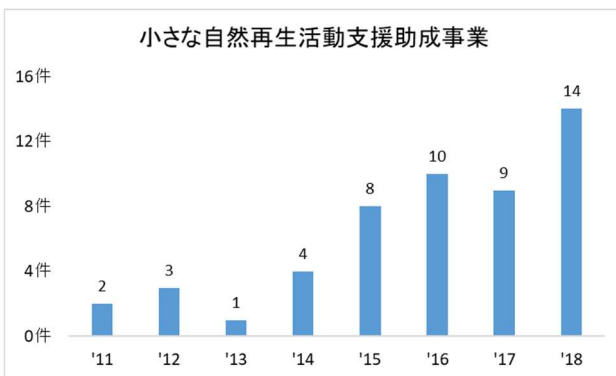


- ・2005年の試験放鳥から、野外のコウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。
- ・野生復帰したコウノトリは、市内だけでなく、全国各地を訪れています。2017年度に、47都道府県全てへの飛来が達成されました。

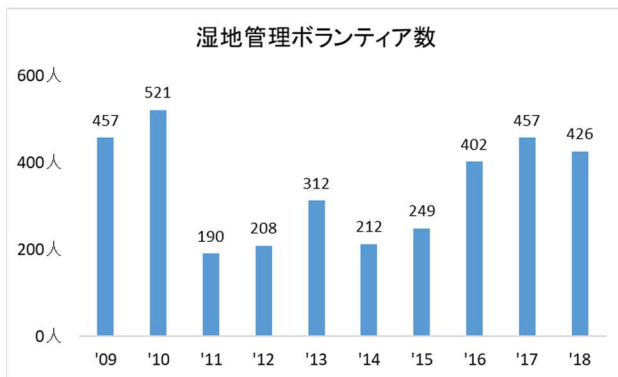


- ・2018年度の野外繁殖地(市外)は、京都府京丹後市、島根県雲南市、徳島県鳴門市です。

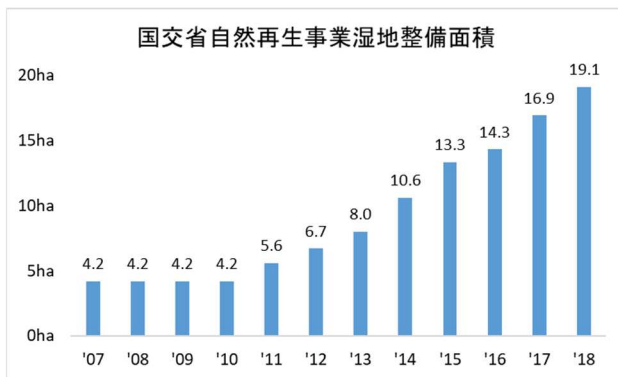
(2) コウノトリが生息できる環境の整備



- ・小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生」活動(ビオトープづくり、外来雑草等の除去など)を支援しています。



・戸島、田結、加陽などの湿地では、市内外からのボランティアを受け入れ、保全・管理作業を進めています。



・豊岡河川国道事務所(国土交通省)は、円山川水系河川整備事業の一環として、湿地の整備を行っています。

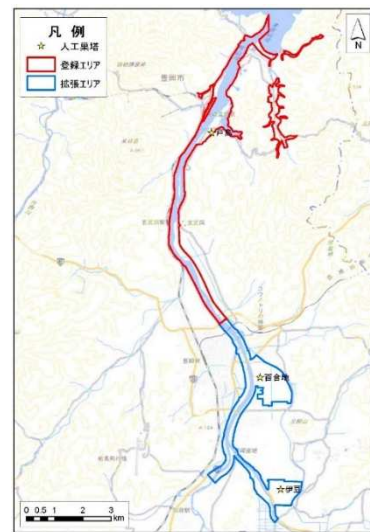
Topics

ラムサール条約湿地エリア拡張

2018年10月23日、アラブ首長国連邦・ドバイでラムサール条約第13回締約国会議(COP13)が開かれ、豊岡市のラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」のエリアが拡張されました。

ラムサール条約・正式名称「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」は、世界的に重要な湿地を評価し、保全するための国際条約です。

今回、百合地巣塔・出石町伊豆巣塔の周辺水田や加陽湿地、豊岡大橋から蓼川大橋までの円山川、円山川合流点から伊豆橋までの出石川、計534ヘクタールが新たに登録されました。拡張後の面積は1,094ヘクタールで、面積は“約2倍”になりました。



図：拡張後のラムサールエリア

2 2018年度評価

評価

- 野外に暮らすコウノトリの個体数が増加している。
- 円山川自然再生事業により、湿地の改良と造成が行われ、ボランティア等による湿地保全活動が継続されている。
- ▲外来種駆除が進んでいない。



目標像⑥

様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます

【主な取組みの方向】

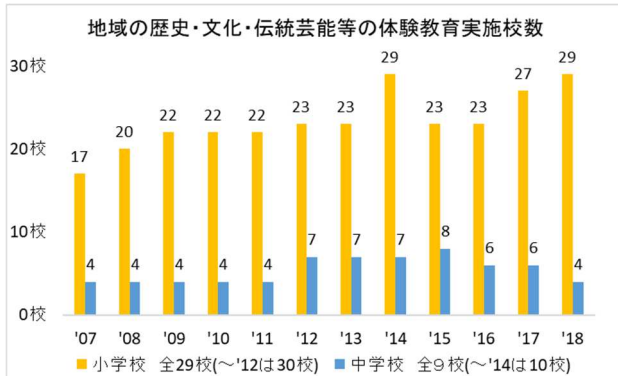
(7) (8) (9)

【具体イメージ】

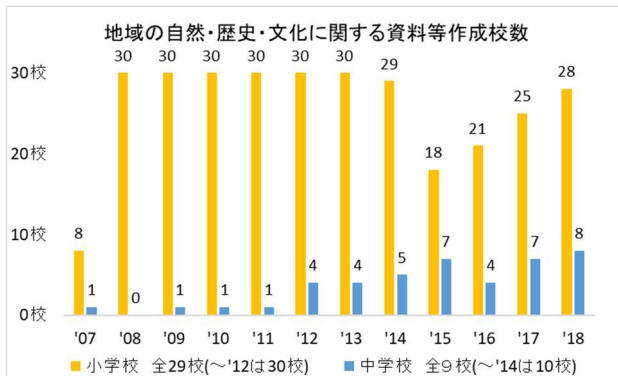
地域の祭りや伝統行事のことを、おじいちゃんやおばあちゃんが孫に語りかけています／子どもたちが地域の祭りに参加して楽しんでいます／地域の誰もが、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

1 主な指標の変化(2007～2018年度)

(1) 地域を学ぶ機会



・学校教育の中では、“地域を知る”という視点で意識して地域の「歴史・文化・伝統芸能」に体験教育に取り組んでいます。



(2) 豊岡市の無形民俗文化財

《まちの祭礼》

地域	名称	寺・神社	主体
豊岡	柳まつり	柳の宮(小田井神社境内)	柳まつり実行委員会祭典部・豊岡おどり部

地域	名称	寺・神社	主体
	豊岡のだんじりパレード		豊岡小学校、同PTA、豊岡市市街地区長会、青少年健全育成豊岡会議
城崎	城崎温泉まつり	四所神社	四所神社氏子総代会、城崎温泉観光協会
	温泉寺開山忌	温泉寺	温泉寺奉賛会主催
	城崎のだんじり祭り	四所神社	四所神社氏子
出石	有子山稲荷神社の初午祭	有子山稲荷神社	弘道地区十六区(氏子)、商工会
	出石だんじり祭り	石部神社、諸杉神社、伊福部神社	出石だんじり祭り実行委員会
	諸杉神社の秋祭り	諸杉神社	諸杉神社氏子
	出石大名行列槍振り		出石大名行列保存会

出典：豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書(2016年度作成)

《民俗芸能》

地域	名称	寺・神社	主体
豊岡	法花寺万歳		法花寺万歳保存会
	雷神社の御田植祭	雷神社	雷神社氏子
	奈佐節(六条さん)		奈佐節保存会
	森尾の盆踊り		森尾盆踊り保存会
竹野	轟の古代太鼓踊り	蓮華寺(真言宗)	蓮華寺古代太鼓踊り保存会・僧侶
	轟・森神社の獅子舞と大神楽	森神社(旧式内社阿古谷神社)	轟太鼓神楽保存会
	森本の盆踊りと変装踊り		森本区長・森本盆踊り保存会
	田久日の盆踊り		田久日区民
日高	気多神社秋祭りの獅子舞		気多神社太神楽保存会
	鶴岡大祭と太神楽	井田神社	鶴岡大祭実行委員会
出石	箱根神社のお田植えさん	箱根神社	福居区
	大日神社の奉納獅子舞(廃絶)		百合区
	出石盆踊り		出石町盆踊り大会実行委員会
但東	大生部兵主神社の春祭りの練り込み太鼓と浦安の舞	大生部兵主神社	大生部兵主神社氏子ほか
	栗尾の練り込み太鼓	愛宕神社、清滝神社、日定神社	栗尾練り込み太鼓保存会
	新宮神社秋祭りと東中・小坂の練り込み太鼓	新宮神社	
	赤野の太刀振り	赤野神社	赤野太刀振り保存会
	如布神社の秋祭り・如布神楽	如布神社	地域内氏子

出典：豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書(2016年度作成)

《各地区の氏神・子祠・堂の祭祀と年中行事》

地域	名称	寺・神社	主体
豊岡	庚申堂の星祭り	庚申堂、京口会館	星祭祭典員会、京口区、京寿会、婦人会、壮和会
	兵主神社の千本杵餅つき	式内兵主神社	赤石区
	中嶋神社菓子祭	中嶋神社	中嶋神社、奉賛会、氏子
	絹巻神社の子供奉納相撲	絹巻神社	絹巻神社、港地区の各区、港こども育成会
	ゑびす大祭 宝恵駕籠行列	小田井神社境内ゑびす神社	小田井神社奉賛会
	女代神社の茅の輪くぐり	女代神社	女代神社氏子
	江月寺の祇園さん・数珠繰り	江月寺	長松寺(下鶴井)
	気比の精霊送り		気比区、気比育成会
	田結の地藏盆	六地藏堂	大師講の講員と仏教婦人会の有志
	長谷の万灯		長谷区万灯実行委員会
	中郷の秋祭り・ジジババオコシ	葦田神社	中郷区
城崎	楽々浦・鼻かけ地藏の祭り	地藏堂	鼻かけ地藏尊奉賛会
	来日の地藏盆		口組の戸主を中心に、子供会・老人会が参加
	久流比神社の秋祭り・ふみこし	久流比神社	久流比神社氏子
	青山神社の秋祭り・だんじり祭り	青山神社、天満社	青山神社氏子、天満社氏子
竹野	床瀬の狗留尊仏祭り		床瀬区
	松本・十二薬師堂の数珠繰り(百万遍念仏)	十二薬師堂	松本区
	芦谷の不動尊祭り(お不動さん)		芦谷区
	興長寺の目の薬師の縁日	興長寺	興長寺境内の薬師堂
	田久日の村施餓鬼		田久日区
	轟の寺施餓鬼	蓮華寺	轟・鬼神谷・駅前・林・恵日・東大谷・下塚の各区
	竹野の浜施餓鬼		但馬漁業協同組合竹野支所
	森本の地藏講(数珠繰り)	地藏堂	女性の有志
森本の地藏盆		森本区長、森本盆踊り保存会	
日高	宵田の十日恵比寿祭り	日枝神社末社 恵比寿神社	宵田区
	田ノ口の塞の神祭り	清滝神社	田ノ口区
	ばば焼き(御柱祭り)	十二所神社	松岡区
	山田の花まつり		山田区
	お薬師さんのご開帳・すり焼き	国分寺	国分寺
石龍神社の子供奉納相撲	石龍神社	久斗子供会、久斗相撲保存会	

地域	名称	寺・神社	主体
	浅倉の川濯祭り	兵主神社末社 水無月神社	浅倉区
	伊府の数珠繰り		老人会、子供会
	夏栗の弘法大師祭(二十日盆・盆踊り)	善福寺	夏栗区、子供会は共催
	上石の地藏祭り(水生地蔵)	清水場、岩盤の祠	上石区
	奈佐路の地藏祭		奈佐路区
	広井の万灯火祭り	権現山の火災不動、広井地区のお堂	広井区民(男性)
	山田の秋祭り和大日堂の法要	吉野神社、三柱神社、大日堂	山田区
	須谷神社の秋祭り	須谷神社	藤井区民
	西芝のだんじり祭り	須賀神社	西芝区
出石	幟回し	出石神社	宮内少年会
	袴狭の川下祭り	川下神社	袴狭区、白糸会
	伊豆の甚五郎万灯		伊豆区
	平田の地藏盆(廻り地藏)ほか		諏訪
	愛宕の火祭り	伊福部神社、愛宕神社	御神火会、愛宕火祭り奉賛会
	片間の万灯		片間地区隣保
	福見妙見堂の妙見さん		福見区
	鍛冶屋の八朔の大綱引き		鍛冶屋区文化部、子供会
	御出石神社・貴船神社の秋祭り	御出石神社、貴船神社	桐野区、寺坂区、中野区、日野辺区
但東	但馬天満宮の学業成就合格祈願祭	但馬天満宮	奥矢根区
	福寿稲荷の初午	稲荷社	坂野区
	赤花の鬼子母神祭	法華寺	法華寺
	栗尾の薬師祭り	松禪寺	薬師堂、栗尾ふるさと委員会ふるさと一三五
	久畑・愛宕神社の夏祭り	一宮神社、一願不動尊	久畑区(祭礼)、けやきの会
	虫生の万灯		虫生区の青年層
	日出神社の千本餅つき	日出神社	南尾区、出合区、日殿区、出合市場区

出典：豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書(2016年度作成)

(3) 地域コミュニティ

2017年度から、地区公民館が全て地区コミュニティセンターに変わりました。それに伴い、旧地区公民館区域を単位とした新しい地域コミュニティが、自ら「地域づくり」や「課題解決」を行います。地域コミュニティづくりは、若者から高齢者まで、男性も女性も、多様な住民が参画しながら地域の未来を見据えて住民自治を進める取組みです。

<各地区コミュニティと主な交流行事>

地域	地区	コミュニティ名	交流行事の一例
豊岡	豊岡	とよおかコミュニティ 31	見て歩き&バーベQ大会
	八条	八条コミュニティ	“出張”八条サロン
	三江	三江コミュニティ	三江地区文化祭
	田鶴野	コミュニティたづるの	ふるさと探訪歩こう会
	五荘	コミュニティ五荘	こどもクリスマス茶会
	新田	コミュニティ新田	みひらき健康マラソン大会
	中筋	コミュニティなかすじ	なかすじ文化まつり
	奈佐	奈佐地区コミュニティ なぎさの会	なぎさカフェ
	港	コミュニティみなと未来	港西大運動会
	神美	神美コミュニティ	新春囲碁大会
城崎	城崎	コミュニティ城崎	朝市一周年記念イベント
竹野	竹野南	竹野南地区コミュニティ わいわいみ・な・み	そば作り
	中竹野	中竹野地区コミュニティ	ふれあい居酒屋
	竹野	コミュニティたけの	鋳物師戻り峠の山歩き
日高	国府	コミュニティこくふ	ふれあいグラウンド・ゴルフ大会
	八代	八代おもいやりネット	八代川の生き物調査
	日高	日高地区コミュニティ 「きらめき日高」	地域探検「お地蔵さんめぐり」
	三方	コミュニティ三方	綱引き大会
	清滝	桜・清流の郷 きよたき	清滝地区文化祭
	西気	西気明日のいしずえ会	西気ふれあいカフェ
出石	弘道	弘道コミュニティ協議会	すまいるカフェ
	菅谷	はにの里菅谷協議会	ふれあい広場
	福住	福住ふれあい協議会	おひな様まつり
	寺坂	床尾の里てらさか	コミュニティ祭り
	小坂	夢コミュニティ小坂	まち歩き・まち探検
	小野	小野コミュニティ	小野フェスタ(芋煮会)
但東	資母	資母まちづくり協議会	宝まつり
	合橋	コミュニティあいはし	5感の MOVE 夏 FESTIVAL ! 2018
	高橋	高橋振興対策協議会	高橋ふれあい市

※交流行事の一例は、「平成 30 年度地域コミュニティ組織活動事例集」から抜粋

伝統・民族芸能紹介 轟の太鼓踊り(県指定無形民俗文化財)

轟の太鼓踊りは、室町時代末期には成立していたとされています。盆の時期に、施餓鬼供養として蓮華寺に奉納されます。

白装束が基本で、踊りは太鼓をたたきながら行われます。前後左右など時々体の向きを変えながら、足を前後に運ぶ静かな踊りです。

但馬5地域に伝わる「ざんざか・ざんざこ踊り」と同じ系統ですが、仏事として行われるという非常に珍しい特徴をもっています。



提供：豊岡市教育委員会

平成4年、檀家の協力を得て「蓮華寺古代太鼓踊保存会」を発足。30年以上の中断期間がありながら、見事復活を果たし、現在に至っています。

2 2018年度評価

評価

- 各地域コミュニティで特色のある活動が行われている。
- 地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成し、地域を学ぶ子どもたちが増えてきている。
- ▲高齢化、少子化の進行により、伝統行事の継続が難しくなっている。

この調子で
がんばろう

目標像⑦

子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【主な取組みの方向】

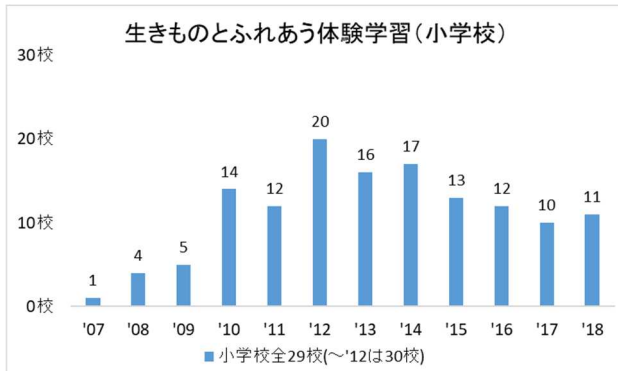
(1) (2) (3) (4) (5)
(8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

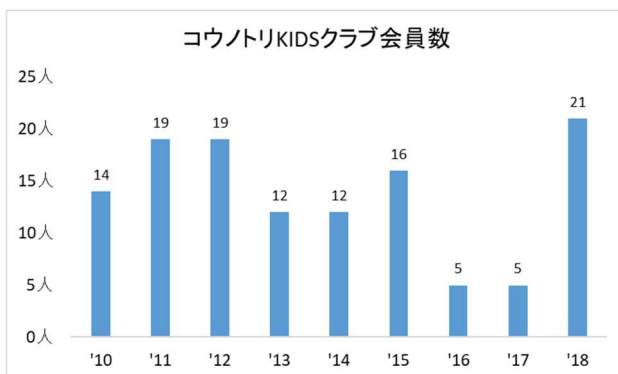
地域の環境をよくする取組みが広がり、自然が豊かになっています／自然のことをたくさん学んだ子どもたちがよく外遊びをしています／子どもたちを地域の人が見守っています

1 主な指標の変化(2007～2018年度)

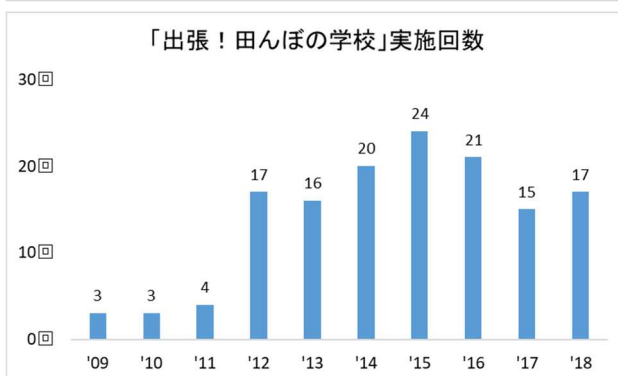
(1) 自然を学ぶ機会



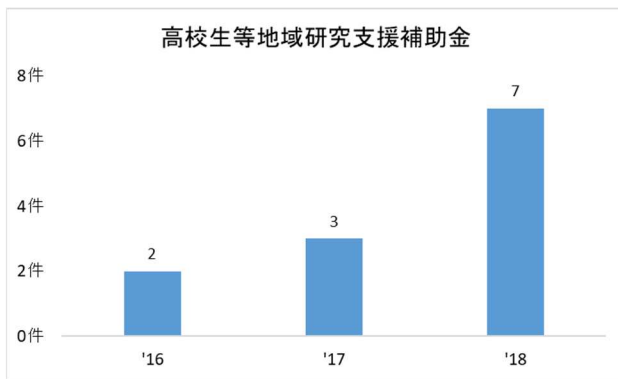
- ・小学校の生きもの調査のなかで、市が指導を担当した数です。独自に実施している学校もあります。



- ・コウノトリ KIDS クラブは、コウノトリとその生息を支える自然を深く学ぶ、市主催のクラブ活動です。
- ・対象：市内小学校4～6年生



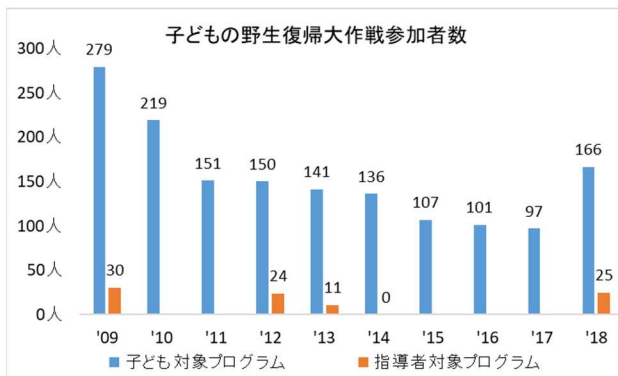
- ・「出張！田んぼの学校」では、NPO 法人コウノトリ市民研究所のスタッフが、各地域の主催で行われる生きもの調査に講師として出向きます。



・高等学校・高等専修学校の生徒が行うふるさと豊岡の誇りであるコウノトリ等に関連する研究や調査、活動等を支援しています。ふるさとの知見を深め、将来に渡って豊岡とつながりを持ち、取組みに参加する若者を増やすことが目的です。

《2018年度の研究》

申請者	研究タイトル
近畿大学附属豊岡高等学校 こうのとり同好会	探究活動「コウノトリ生息地保全活動・調査研究・普及啓発」
クラーク記念国際高等学校 豊岡キャンパス	特別活動「豊岡のコウノトリについて学ぼう」
兵庫県立豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ	高校生の湿地などでの環境保全・調査観察活動
兵庫県立出石特別支援学校	高等部コウノトリはばたけ学習
兵庫県立豊岡総合高等学校	コウノトリ共生-人と自然の共生-
兵庫県立出石高等学校	文理探究Ⅰ 自然分野の探求 ～コウノトリとふるさと豊岡の自然環境を学ぶ～
大岡学園高等専修学校	戸牧川生態系に及ぼす河川の実態調査



・子ども対象プログラムは、2017年度までは「子どもコース」と「家族コース」の合計、2018年度からは「周年型プログラム」と「単発型プログラム」の合計です。

・子ども対象プログラムでは、市内各地域での活動を通じて、豊岡の自然を体験します。

(2) 学べる地域環境

市内全小学校区を目標に、一定規模のビオトープ水田の設置を進めています。環境学習フィールドとしても活用しています。

《市内各小学校区のビオトープ水田面積》

(単位：a)

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積
豊岡	豊岡	0.0	豊岡	港東	5.2	日高	府中	31.2	出石	弘道	0.0
	八条	111.0		港西	0.0		八代	0.0		福住	0.0
	田鶴野	47.7		神美	187.8		日高	18.1		寺坂	0.0
	三江	66.5	城崎	0.0	静修		0.0	小坂		0.0	
	五荘	222.4	竹野	竹野	20.2		三方	36.4	小野	56.1	
	新田	0.0		中竹野	0.0		清滝	19.1	合橋	231.8	
	中筋	14.7		竹野南	0.0	但東	高橋	0.0			
	奈佐	48.3					資母	22.0			

※合計面積の推移は p. 15 に掲載

コウノトリ KIDS クラブ×大学院生

Topics

2018年12月にコウノトリ KIDS クラブ特別活動として、「コウノトリ KIDS クラブ×大学院生」のコラボ授業を実施しました。

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科・エコ研究部門の学生が、コウノトリやカエルなどそれぞれの研究内容を説明。クイズやゲームを交えての講義や、班ごとに分かれてのワークショップなど、授業の内容や方法は、全て講師を務めた学生が考えました。

終わった後も大学院生に熱心に質問をするなど、子どもたちの興味は尽きず、とてもいい経験となりました。



2 2018年度評価

評価

- コウノトリ KIDS クラブの会員が増加している。
- 自然環境保全に取り組む高校が増加している。
- 各地で子どもの自然体験活動が浸透している。
- 兵庫県立大学大学院と連携した市の取組みが広がっている。

よく
がんばり
ました

目標像⑧

市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【主な取組みの方向】

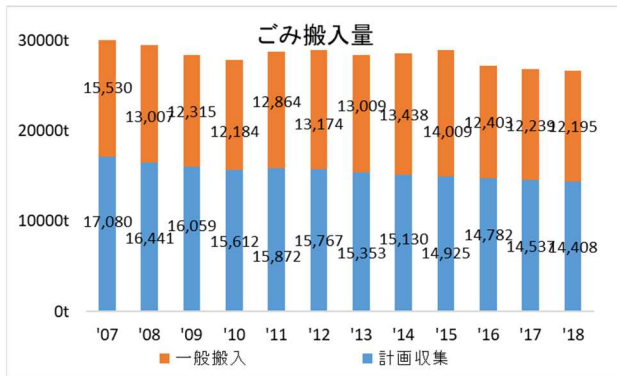
(2) (6) (9) (11) (12)

【具体イメージ】

資源ごみ回収ステーションが増えています／みんなが無駄遣いを減らし、分別を徹底することでごみの量が減少しています／生ごみは堆肥などに、廃食用油は燃料として利用され、資源やエネルギーの地域内循環が進んでいます／事業者は、ゼロエミッションの取組みを進めています

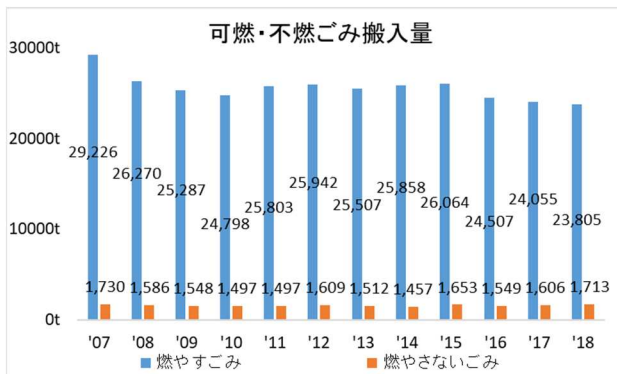
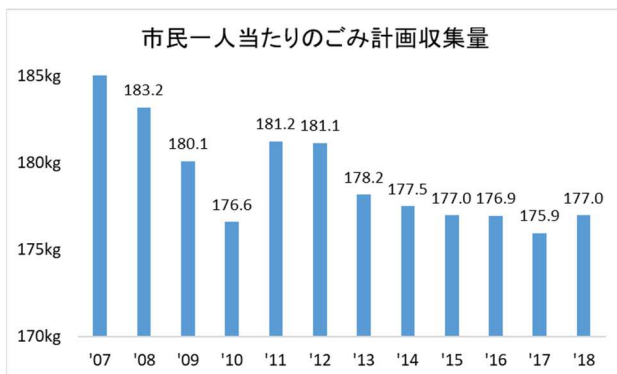
1 主な指標の変化(2007～2018年度)

(1) ごみの量

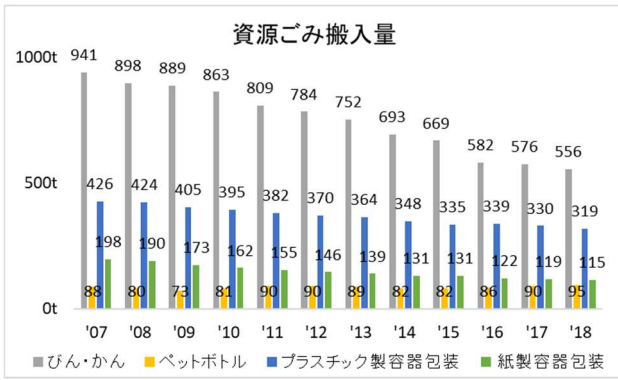


《豊岡市人口(各年度末値)》

年度	人口
2007	90,443人
2008	89,762人
2009	89,169人
2010	88,407人
2011	87,585人
2012	87,040人
2013	86,173人
2014	85,244人
2015	84,337人
2016	83,544人
2017	82,624人
2018	81,416人



- ・ごみの分類ごとの搬入量は、計画収集と一般搬入を合わせたものです。
- ・2016年4月から一部のごみの分別区分が下記の通り変わりました。
 - ①燃やすごみで指定袋に入らないものは粗大ごみ
 - ②燃やさないごみは、燃やさないごみ・蛍光灯・乾電池類・粗大ごみの4分類
 - ③1辺20cm以上の缶は燃やさないごみ
 - ④プラスチック製品(プラ製容器包装を除く)は、硬さに関わらず全て燃やすごみ



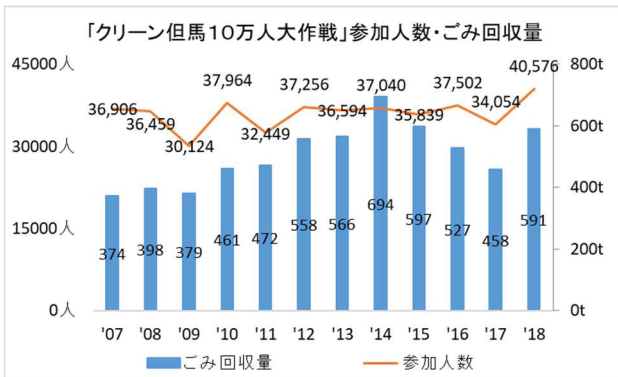
(2) 資源ごみの回収

ほぼ全ての小・中学校で、資源ごみ回収(廃品回収)やリサイクル活動が行われています。

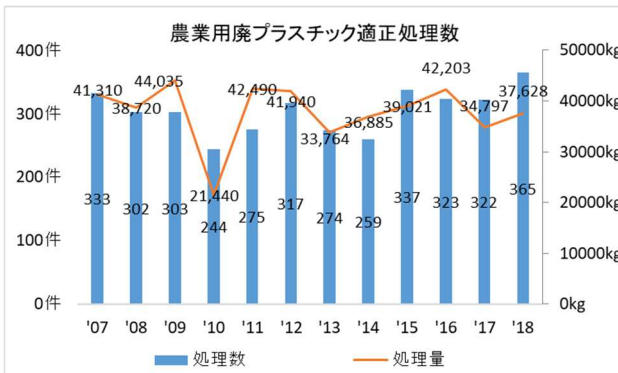


- ・豊岡市の住民で構成される自治会、子供会、婦人会、老人会、PTA等の営利を目的としない団体を対象に、資源ごみ集団回収事業補助金を交付しています。
- ・集団回収以外にも、スーパーマーケット等の施設でも、資源ごみが回収されています。

(3) ごみ回収の取組み



- ・1990年から、毎年6月の第一日曜日を実施基準日として定め、住民が参加する清掃・美化活動「クリーン但馬10万人大毎年作戦」を実施しています。
- ・地域住民がよりいっそうクリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬を美しく住み心地の良い地域とすることを目指します。



- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、年に一度持ち寄って集団処理が行われています。
- ・最終処分を担っている業者では、資源化(サーマルリサイクル、マテリアルリサイクル)処分しています。



【サーマルリサイクル】

焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用

【マテリアルリサイクル】

原料として再生利用

市内のペットボトルやプラスチック製容器包装の処理方法、行方

市民の皆さんが分別したペットボトル()やプラスチック製容器包装()は、クリーンパーク北但(竹野町坊岡)で選別して次の再生工場へ出荷し、大切な資源として国内で再利用しています。

「ペットボトル」と「プラスチック製容器包装」は、公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会から指定を受けた再商品化事業者にそれぞれ出荷しています。2素材を出荷する両工場ともに、地球温暖化が大きな社会問題となっている中で、環境への負荷が少ないマテリアルリサイクル(製品の原料として再利用)を展開しています。

ペットボトルは、再生工場ですらにキャップやラベル等の異物を取り除き、品質を向上させ、粉砕機によって細かく切断してフレーク状(再溶解用に細かく粉砕した約8mm四方の薄片状)にします。フレークは、国内の多種多様な業界で利用されており、カーペットや卵パック、作業服(繊維)、結束バンド等の原料に用いられます。

また、プラスチック製容器包装についても、さらに選別して品質を向上させ、造粒機で熔融し、ペレット状(3~5mm程度の粒子状)にします。ペレットは、日本国内のプラスチック加工会社に出荷され、フェンス(擬木)や輸送物流のパレット、車止め等の原料に用いられるほか、出荷先の工場によっては、燃料の一部として再利用されます。

2 2018年度評価

評価

- クリーン但馬 10万人大作戦の参加人数が増加している。
- 市内にいつでも出せる古紙回収ボックスが浸透している。
- ▲家庭から排出される一人当たりのごみ量が微増している。



目標像⑨

市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を 実践し、再生可能エネルギーの利用も増え ています

【主な取組みの方向】

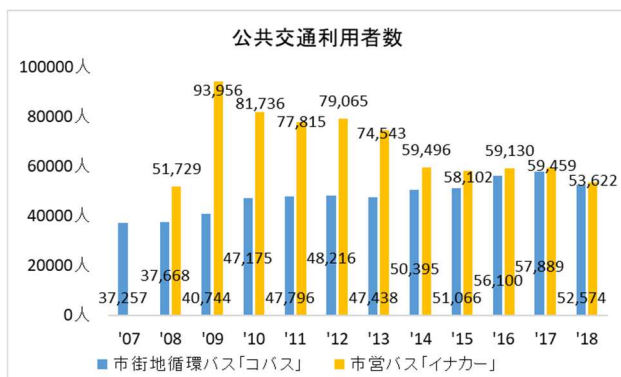
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

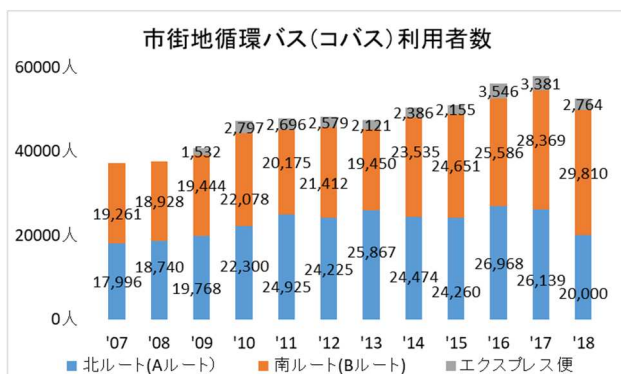
地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がっています／大人も子どもも省エネルギー行動が当たり前になっています／太陽光発電パネルの設置や電気自動車の導入、エコドライブの実践が進んでいます

1 主な指標の変化(2007～2018年度)

(1) 公共交通の利用



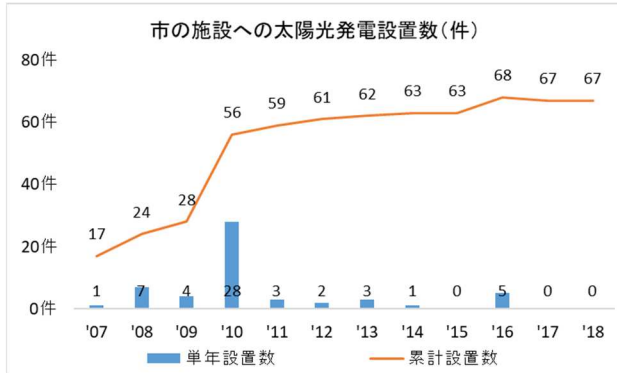
- 公共交通機関を利用することで、各乗用車での化石燃料使用が減り、一人当たりのCO₂排出量も減らすことができます。



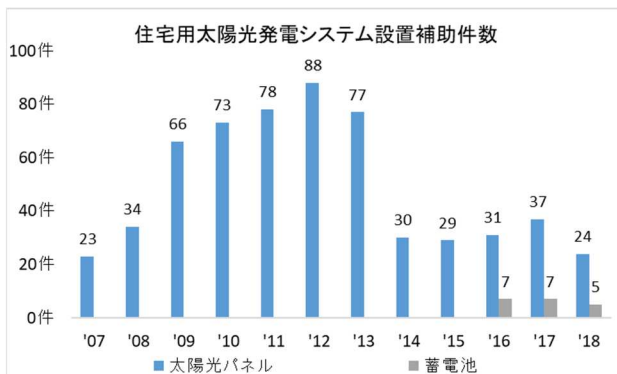
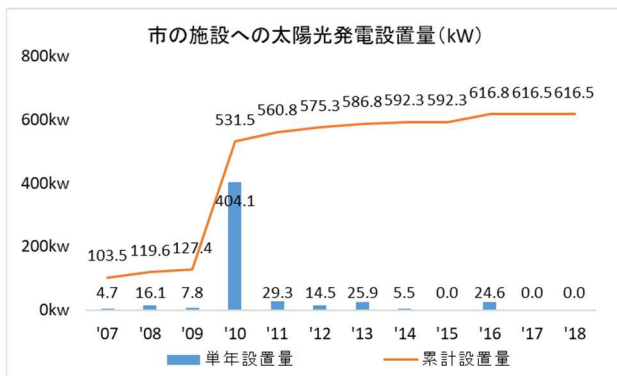
- 2018年度、コバスの走行ルートが、Aルート・Bルートから北ルート・南ルートに変更されました。
- ルート変更に伴い、5カ所のバス停を休止し、3カ所のバス停を新設。各ルートの乗継停留所を豊岡駅とアイティ前に集約しました。

(2) 太陽光発電

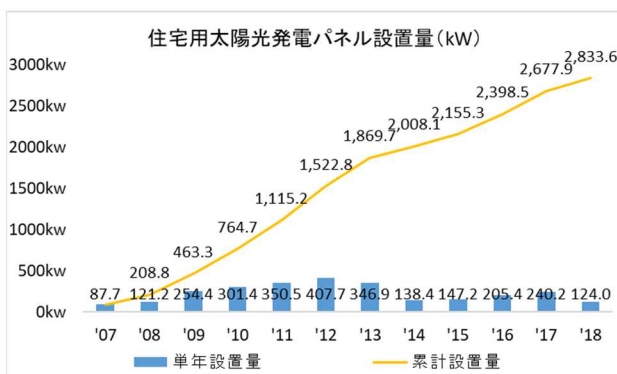
太陽光発電は、発電時に化石燃料を使用せず、二酸化炭素(CO₂)も発生しないため、環境への負担が少ない電力です。



- 市の施設への設置は、1999 年度から行われています。
- 2013 年度、介護施設 2 件を民間譲渡
- 2017 年度、破損により 1 件撤去

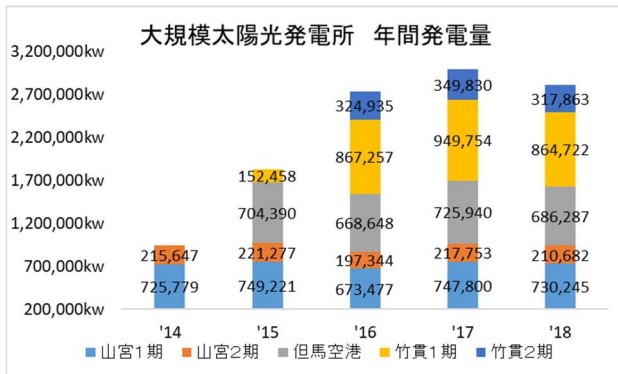


- 2016 年度から、蓄電池も補助対象となりました。
- 太陽光パネルと一緒に蓄電池をつける場合も後から蓄電池だけをつける場合も対象です。

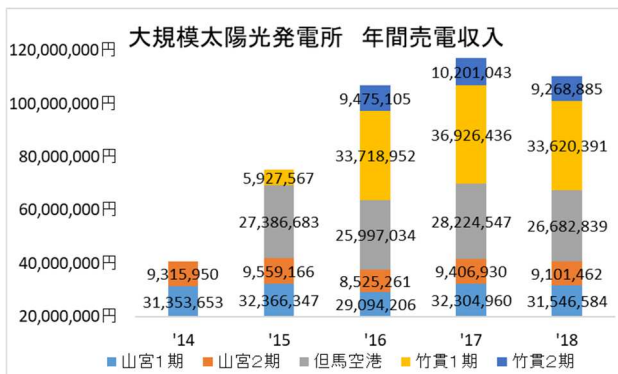


《豊岡市所有大規模太陽光発電所》

施設名	稼働開始	最大出力	売電単価(税抜き)
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第1期	2012年度	681.0kw	40円
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第2期	2013年度	318.8kw	40円
コウノトリ但馬空港地場ソーラー	2013年度	677.6kw	36円
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第1期	2015年度	823.2kw	36円
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第2期	2015年度	299.9kw	27円



・各大規模発電所は、20年間運営します。



・大規模発電所で発電した電力の売電収入は、設備の維持・管理費の他に、住宅用太陽光発電システム導入補助、木質バイオマス利用機器設置補助の費用に充てています。

江野のピコ水力発電

江野区で、古い水車小屋を利用したピコ水力発電が 2018 年 3 月に完成しました。

但馬県民局が委嘱する「但馬夢テーブル委員会」のグループの一つ「但馬いかそうかい」第 8 期メンバーが水力発電システムを手作りで制作。約 50 年前まで粉ひきに使われていた水車小屋に注目し、試行錯誤を繰り返し 6 年がかりで完成させました。

約 1.5m の落差がある水流を利用し、プラスチック製の水車を回転させることで、24 時間発電。最大 38W になる発電した電気は庭木のデコレーションライトや獣害防止の電気柵などの電源として使用しています。

発電量は小規模ですが、将来、電力の地産地消に向け大きな一歩になりました。



2 2018 年度評価

評価

- 住宅用太陽光発電設備の設置が広がっている。
- メガソーラーによる発電が順調である。
- ▲コバス利用者が減少している。

この調子で
がんばろう

目標像⑩

環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【主な取組みの方向】

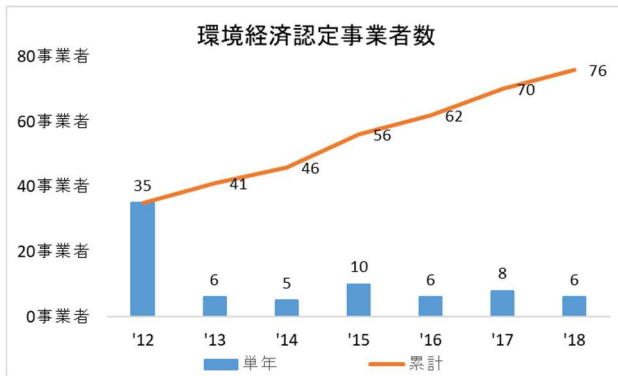
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

「環境と経済の共鳴」の環境経済戦略がさらに進み、豊岡の知名度が上がっています／人・もの・情報が広域的に行き交う取組みが進んでいます／新たに受け入れた産業や企業、知や技の交流を通じて、豊岡の町が元気になっています

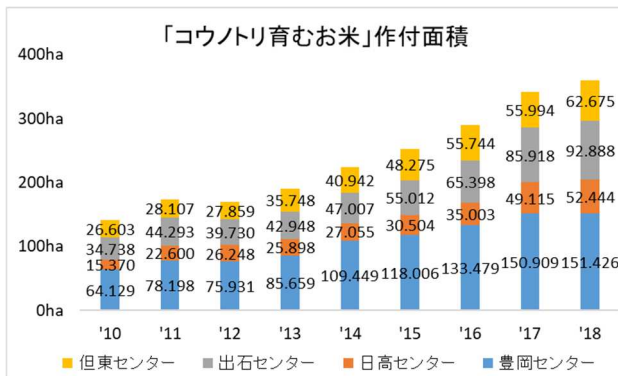
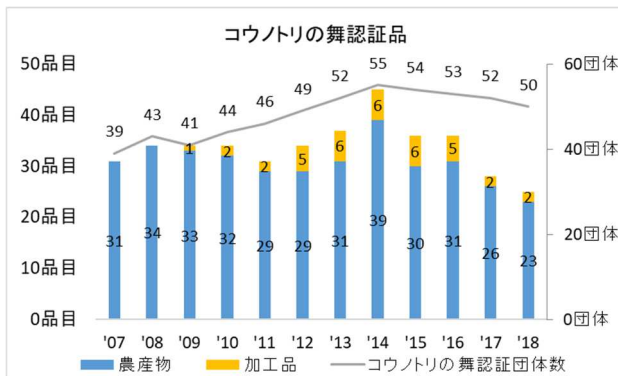
1 主な指標の変化(2007~2018年度)

(1) 環境経済認定事業

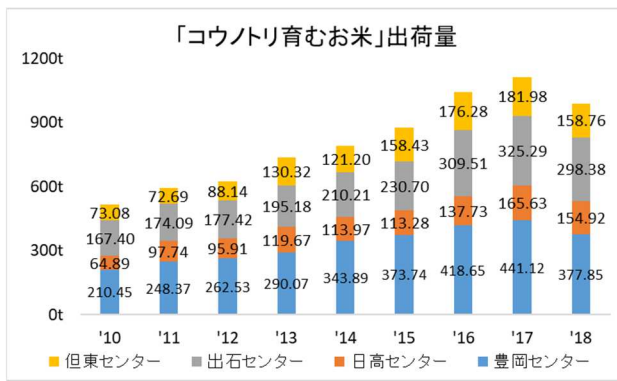


・市内の企業で、利益を追求する事業で環境が改善されるものを「環境経済事業認定」しています。

(2) 豊岡ブランド



・JA たじま営農生活センターごとのデータです。

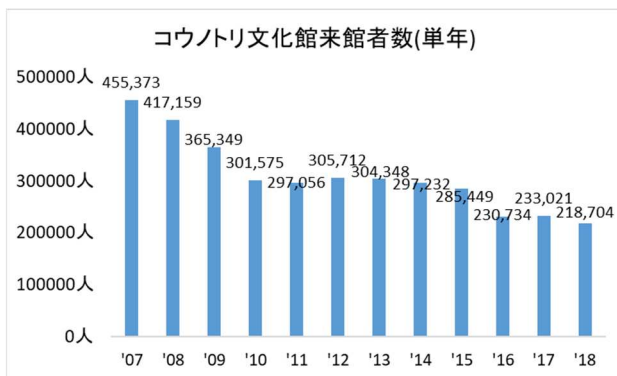


・コウノトリ育むお米は海外でも販売されています。

《コウノトリ育むお米の海外への輸出状況》

年度	輸出国	輸出量
2016	2カ国（アメリカ、シンガポール）	1.5t
2017	3カ国（アメリカ、シンガポール、香港）	7.8t
2018	5カ国（アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、アラブ首長国連邦）	17.2t

(3) 人・もの・情報の交流



- ・2006年 100万人達成
- ・2008年 200万人達成
- ・2011年 300万人達成
- ・2014年 400万人達成
- ・2018年 500万人達成

<CSR活動による地域活性>

企業が環境保全活動の際に、宿泊や観光も行うことで、地域の活性化につながります。

・KDDI 株式会社

2016年にKDDI株式会社と豊岡市による地域活性化を目的とした包括協定の締結をきっかけとして、CSR活動が展開されています。

【CSR活動】

Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)の略語。企業が社会の一員として社会に与える影響について責任を持ち、社会の持続的発展に貢献するために実践される活動を指す。日本では、利潤を社会に還元したり地域の一員として貢献するのがCSRであるといった考え方の企業が多く、事業分野と関連のある本業とは別の社会貢献活動(寄付、ボランティア活動、地域貢献など)を行う企業が多い。

中筋地区の住民が立ち上げた「未来の種株式会社」が、学校給食への野菜供給などを目的に雪室を整備しました。

雪室は、雪を入れたコンテナ3棟と野菜保存用のコンテナ2棟が交互に配置され、野菜を冷やして貯蔵します。雪室に入れる雪は、神鍋の雪を使用しています。

2017年5月から、雪室で貯蔵されたジャガイモやタマネギが学校給食で使われています。

出石では、2018年のゴールデンウィーク明けから期間限定で、雪室で3カ月貯蔵されたそばを使った「雪室そば」を提供しているお店があります。雪室で貯蔵されたそばは、香りや甘味が増します。



2 2018年度評価

評価

- コウノトリ育むお米の輸出国が増加している。
- CSR活動の受け入れによる交流人口が増えた。
- ▲コウノトリ文化館の来館者数が減少している。

この調子で
がんばろう

第3部 豊岡市の環境の状況

■環境の状況について

豊岡市の環境に関するさまざまなデータとその経年変化を整理しています。

1 自然

(1) 気象の状況

年次	気温 (°C)			湿度 (%)	降水量 (mm)	最深積雪 (cm)	霧日数 (日) ※	猛暑日 (日)
	平均	最高極	最低極					
2000年	14.5	39.3	-3.7	79	1,955	48	88	23
2001年	14.3	36.8	-6.0	78	2,451	52	83	16
2002年	14.6	37.9	-3.3	76	2,047	46	77	22
2003年	14.3	36.2	-5.5	77	1,829	28	71	7
2004年	15.4	37.2	-4.7	76	2,510	46	60	13
2005年	14.5	37.2	-5.9	78	2,114	45	59	10
2006年	14.5	36.8	-6.3	78	2,083	79	78	13
2007年	15.0	38.6	-4.2	76	1,850	18	未測定	14
2008年	14.6	38.4	-2.3	77	2,020	32	84	18
2009年	14.6	36.3	-5.2	77	2,136	43	94	3
2010年	15.2	38.0	-3.7	76	1,993	21	62	38
2011年	14.5	37.7	-5.9	78	2,424	75	60	22
2012年	14.3	37.7	-5.8	79	2,252	100	67	32
2013年	14.9	37.9	-4.4	77	1,997	33	58	25
2014年	14.4	38.7	-3.4	80	2,002	30	71	8
2015年	14.9	37.6	-2.8	81	2,018	42	61	11
2016年	15.4	38.2	-6.9	81	2,073	20	64	10
2017年	14.4	37.9	-3.8	80	2,525	80	81	15
2018年	15.5	39.1	-2.1	81	2,259	11	62	31

※「霧日数」は、2007年9月以前(目視)と2007年10月以降(視程計)で、観測方法が異なる。 資料：気象庁

(2) 大気の状態

ア 県一般環境大気測定局における測定結果：年平均値（市役所測定局）

年次	一酸化窒素 (ppm)	二酸化窒素 (ppm)	二酸化硫黄 (ppm)	浮遊粒子物質 (mg/m3)
2003年	0.003	0.009	0.003	0.019
2004年	0.004	0.009	0.002	0.019
2005年	0.005	0.012	0.002	0.020
2006年	0.004	0.008	0.002	0.019
2007年	0.004	0.007	0.002	0.017
2008年	0.001	0.007	0.002	0.018
2009年	0.003	0.007	0.002	0.015
2010年	0.002	0.006	0.001	0.022
2011年	0.003	0.007	0.001	0.018
2012年	0.001	0.007	0.001	0.020
2013年	0.001	0.006	0.001	0.022
2014年	0.001	0.005	0.001	0.019
2015年	0.001	0.004	0.001	0.019
2016年	0.001	0.004	0.001	0.018
2017年	0.000	0.004	0.001	0.016

資料：兵庫県環境白書

イ 県自動車排出ガス測定局における測定結果：年平均値（国道 312 号小尾崎測定局）

年次	一酸化窒素 (ppm)	二酸化窒素 (ppm)	一酸化炭素 (ppm)
2003 年	0.010	0.017	0.6
2004 年	0.008	0.016	0.5
2005 年	0.007	0.015	0.5
2006 年	0.006	0.013	0.5
2007 年	0.006	0.012	0.4
2008 年	0.005	0.011	0.4
2009 年	0.004	0.009	0.4
2010 年	0.003	0.008	(0.3)
2011 年	0.005	0.009	0.3
2012 年	0.004	0.008	0.3
2013 年	0.003	0.005	0.3
2014 年	0.003	0.007	0.3
2015 年	0.003	0.006	0.2
2016 年	0.003	0.006	0.3
2017 年	0.002	0.005	0.4

※ () は、有効測定時間数 (6000 時間/年) に達していない値を示す。

資料：兵庫県環境白書

(3) 河川の水質〔BOD (生物化学的酸素要求量) 75%値〕の推移

(単位：mg/l)

年次	河川・観測地点(環境基準)		
	円山川上流上ノ郷(2.0mg/l)	円山川下流立野大橋(3.0mg/l)	竹野川竹野新橋(2.0mg/l)
2006 年	0.6	0.6	0.0
2007 年	0.6	0.5	0.5
2008 年	0.6	0.5	0.5
2009 年	0.5	0.5	0.0
2010 年	0.6	0.6	0.6
2011 年	0.6	0.8	0.0
2012 年	0.8	0.8	0.4
2013 年	0.6	0.8	0.0
2014 年	0.7	1.1	0.5
2015 年	0.6	1.2	0.7
2016 年	0.5	0.9	0.5
2017 年	0.7	0.8	0.5

資料：兵庫県環境白書

2 コウノトリ

(1) コウノトリの野生復帰の歩み

年次	コウノトリの野生復帰の歩み
1955 年	・コウノトリ保護協賛会が発足し、官民一体となった保護運動を展開
1956 年	・コウノトリは 20 羽に減少。コウノトリが国特別天然記念物の指定を受ける
1962 年	・兵庫県が、国の特別天然記念物コウノトリの管理団体として指定を受ける
1963 年	・コウノトリは 11 羽に減少 ・巣から卵を取り、人工孵化を試みるが成功せず、野生個体を捕獲し、人工飼育に踏み切ることを決定
1964 年	・コウノトリ飼育場(現保護増殖センター)の建設に着手

年次	コウノトリの野生復帰の歩み
1965年	<ul style="list-style-type: none"> ・野上地区にコウノトリ飼育場が完成 ・一つがいを保護し、人工飼育スタート
1971年	<ul style="list-style-type: none"> ・野生最後の1羽が豊岡市内で保護されたが死亡。これにより日本国内の野生コウノトリが消滅
1985年	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア(ハバロフスク地方)から野生の幼鳥6羽を受贈
1986年	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡盆地に生息し、飼育場で人工飼育されていた最後のコウノトリが死亡
1989年	<ul style="list-style-type: none"> ・人工飼育で初の繁殖に成功。以後、毎年繁殖に成功
1992年	<ul style="list-style-type: none"> ・野生復帰構想スタート
1994年	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育下第3世代が誕生 ・「第1回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催
1997年	<ul style="list-style-type: none"> ・県立コウノトリの郷公園の整備に着手
1998年	<ul style="list-style-type: none"> ・増殖事業は軌道に乗り、飼育下のコウノトリは50羽を超える
1999年	<ul style="list-style-type: none"> ・県立コウノトリの郷公園が開園
2000年	<ul style="list-style-type: none"> ・市立コウノトリ文化館が開館 ・「第2回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催
2001年	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育コウノトリが80羽を超える
2002年	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育コウノトリが100羽を超える ・野生のコウノトリ(ハチゴロウ)が飛来し定着する
2003年	<ul style="list-style-type: none"> ・県が「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定 ・コウノトリ野生復帰推進連絡協議会が設置される ・市が安全・安心な農産物ブランド「コウノトリの舞」を商標登録 ・「コウノトリと共生する水田づくり」を始める
2004年	<ul style="list-style-type: none"> ・「コウノトリファンクラブ」が発足する
2005年	<ul style="list-style-type: none"> ・9月24日コウノトリ5羽を自然放鳥 ・「第3回コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催
2006年	<ul style="list-style-type: none"> ・野生のコウノトリ(エヒメ)が飛来し定着する ・放鳥拠点(祥雲寺)から2羽が巣立ち(段階的放鳥) ・飼育コウノトリ3羽を自然放鳥、放鳥拠点(河谷)のコウノトリ4羽を段階放鳥
2007年	<ul style="list-style-type: none"> ・5月20日国内の野外で43年ぶりにひな1羽が誕生し、7月31日46年ぶりに巣立つ ・飼育コウノトリ3羽を自然放鳥(楽々浦)、放鳥拠点(山本)の2羽を放鳥
2008年	<ul style="list-style-type: none"> ・5月20日を「生きもの共生の日」と定める ・野外で8羽のひなが巣立つ ・放鳥拠点(三木)から2羽が巣立ち(段階的放鳥)
2009年	<ul style="list-style-type: none"> ・市立ハチゴロウの戸島湿地オープン ・野外で9羽のひなが巣立つ ・放鳥拠点(唐川)の2羽を放鳥
2010年	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催 ・野外で9羽のひなが巣立つ
2011年	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県教育委員会とコウノトリの郷公園が「コウノトリ野生復帰ランドデザイン」を発表 ・福井県越前市に1ペア(2羽)を移送 ・野外で9羽のひなが巣立つ

年次	コウノトリの野生復帰の歩み
2012年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月3日「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録 ・ 放鳥コウノトリに3世誕生 ・ 野外で14羽のひなが巣立つ
2013年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊岡市立三江小学校の人工巣塔から、初の巣立ち ・ 野外で22羽のひなが巣立つ
2014年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊岡生まれのコウノトリが初めて国境を越え、韓国金海市に飛来 ・ 第5回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催(コウノトリ野生復帰の取り組みの特長や課題をまとめた報告書を発表) ・ 野外で16羽のひなが巣立つ
2015年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月23日千葉県野田市で3羽のコウノトリを放鳥(兵庫県外で初の放鳥) ・ 9月3日韓国忠清南道禮山郡で、韓国初となる放鳥(8羽を放鳥) ・ 10月3日福井県越前市白山区で2羽のコウノトリを放鳥 ・ 野外で13羽のひなが巣立つ
2016年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国で放鳥されたコウノトリからひなが誕生し、巣立つ ・ 野外で12羽のひなが巣立つ
2017年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内野外で生息するコウノトリが100羽を突破 ・ 徳島県鳴門市で、豊岡盆地周辺以外で初のひな誕生 ・ 野外で25羽のひなが巣立つ
2018年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野外で24羽のひなが巣立つ

(2) コウノトリの羽数 (2019年3月31日現在)

区 分	生息数
兵庫県立コウノトリの郷公園の飼育個体	100羽
野外で生息する個体 (ひなを除く)	139羽
飛来した野生個体	－羽
合 計	239羽

資料：県立コウノトリの郷公園

3 人口、世帯数、就業者数の推移

(1) 世帯および人口の推移 (各年10月1日現在)

年次	面積 (k m ²)	世帯数 (戸)	人口 (人)			1世帯当 りの人員	年齢別人口 (人)		
			総数	男	女		14歳以下	15～64歳	65歳以上
◎1995年	697.66	28,131	93,859	44,974	48,885	3.34	16,072	58,557	19,230
◎2000年	697.66	29,181	92,752	44,637	48,115	3.18	14,508	56,489	21,755
◎2005年	697.66	29,617	89,208	42,695	46,513	3.01	12,966	53,177	23,059
◎2010年	697.66	29,741	85,592	40,791	44,801	2.88	11,893	49,523	24,144
2011年	697.66	29,865	84,876	40,478	44,398	2.84	－	－	－
2012年	697.66	29,800	84,116	40,167	43,949	2.82	－	－	－
2013年	697.66	29,856	83,338	39,808	43,530	2.79	－	－	－
2014年	697.66	29,983	82,462	39,405	43,057	2.75	－	－	－
◎2015年	697.55	30,152	82,269	39,497	42,772	2.73	公表未	公表未	公表未
2016年	697.55	30,278	81,391	39,071	42,320	2.69	－	－	－
2017年	697.55	30,456	80,595	38,682	41,913	2.65	－	－	－
2018年	697.55	30,546	78,571	37,841	40,730	2.57	－	－	－

※本表は5年毎の国勢調査結果および兵庫県推計人口結果

◎は国勢調査結果 (2015年は速報値)

(2) 産業別就業者数

(単位：人)

年次	第1次	第2次	第3次	分類不能	計
1990年	5,453	17,921	26,217	48	49,639
1995年	4,823	17,129	27,834	20	49,806
2000年	3,581	15,485	28,179	143	47,388
2005年	3,544	13,485	28,088	73	45,190
2010年	2,873	11,196	26,743	864	41,676
2015年	公表未	公表未	公表未	公表未	公表未

資料：国勢調査

4 森林面積

(1) 樹種別森林面積

(単位：ha)

年次	針葉樹	広葉樹	その他	計
2007年	26,025	27,400	1,115	54,540
2008年	26,070	27,351	1,116	54,537
2009年	26,076	27,345	1,116	54,536
2010年	26,076	27,345	1,116	54,536
2011年	26,077	27,336	1,117	54,530
2012年	26,077	27,336	1,117	54,530
2013年	26,062	27,306	1,142	54,510
2014年	26,092	27,297	1,148	54,537
2015年	26,091	27,297	1,149	54,537
2016年	26,092	27,285	1,160	54,537
2017年	26,097	27,279	1,142	54,518

※端数処理の関係で合計数値が合わない

資料：兵庫県森林GISシステム

(2) 所有者別森林面積 (2017年3月31日現在)

区分	針葉樹	広葉樹	その他	総数
公有林	2,027	2,113	87	4,227
私有林	24,070	25,167	1,056	50,291
共有林	0	0	0	0
総数	26,097	27,280	1,143	54,518

※端数処理の関係で合計数値が合わない

(3) 林業就業者数

2005年	2010年	2015年
26人	101人	68人

資料：国勢調査 (2010年から集計方法変更。農家林家を含む)

(4) 市内の除間伐の面積

年度	面積 (ha)	年度	面積 (ha)
2010年	723	2015年	401
2011年	890	2016年	300
2012年	515	2017年	268
2013年	519	2018年	306
2014年	498		

※市、公社、民間等の分収造林すべてを含む

資料：北但東部森林組合

5 農業

(1) 農家数の推移

(単位：戸)

年次	専業	1種兼業	2種兼業	自給的農家	計
1985年	585	855	6,930		8,370
1990年	647	562	6,251		7,460
1995年	617	648	5,496		6,761
2000年	468	361	3,703	1,732	6,264
2005年	546	296	2,936	2,021	5,799
2010年	570	304	2,270	2,088	5,232
2015年	472	303	1,768	1,912	4,455

※2000年から自給的農家の専兼業別調査の簡素化

資料：農林業センサス

(2) 経営耕地のある農家数と経営耕地面積 (2017)

(単位 農家数：戸、面積：ha)

区分	総数		耕作田		耕作畑		樹園地		休耕田	
	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
2005年	-	3,880	3,713	2,759	2,678	268	251	42	1,280	218
2010年	3,181	3,651	3,098	2,719	2,227	215	212	30	1,054	208
2015年	2,593	3,468	2,518	2,730	1,605	201	151	26	595	118

資料：農林業センサス

6 漁業

(1) 漁家数、漁獲量、漁獲高の推移

年次	漁家数 (戸)			漁獲量 (t)			漁獲高 (万円)		
	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜
2006年	221	124	97	2,941	2,324	617	191,088	177,582	13,506
2007年	210	119	91	2,706	2,285	421	190,926	173,778	17,148
2008年	206	115	91	2,771	2,356	415	192,380	175,209	17,171
2009年	205	114	91	2,248	1,731	517	168,056	153,399	14,657
2010年	198	112	86	2,286	1,939	347	160,490	147,231	13,259
2011年	183	108	75	2,310	2,117	193	162,615	152,825	9,790
2012年	179	108	71	2,375	2,177	198	164,312	154,493	9,819
2013年	167	105	62	2,506	1,987	519	163,244	153,028	10,216
2014年	160	101	59	2,425	2,158	267	171,377	159,616	11,761
2015年	154	97	57	2,484	2,101	383	189,073	178,505	10,568
2016年	145	89	56	2,534	2,295	239	183,870	173,344	10,526
2017年	137	81	56	2,193	1,963	230	177,465	167,947	9,518
2018年	134	79	55	1,750	1,529	221	183,772	172,648	11,124

資料：但馬漁協 津居山支所、竹野支所

7 ごみ

(1) ごみ収集量

(単位：t) [参考] 1人あたりの収集量 (単位：人/kg)

年度	計	計画収集	一般搬入	人口	1人あたり
2007年	32,610	17,080	15,530	90,443	360.6
2008年	29,448	16,441	13,007	89,762	328.1
2009年	28,374	16,059	12,315	89,169	318.2
2010年	27,796	15,612	12,184	88,407	314.4
2011年	28,736	15,872	12,864	87,585	328.1
2012年	28,941	15,767	13,174	87,040	332.5

年度	計	計画収集	一般搬入
2013年	28,362	15,353	13,009
2014年	28,568	15,130	13,438
2015年	28,934	14,925	14,009
2016年	27,185	14,782	12,403
2017年	26,776	14,537	12,239
2018年	26,603	14,408	12,195



人口	1人あたり
86,173	329.1
85,244	335.1
84,337	343.1
83,544	325.4
82,624	324.1
81,416	326.7

※清掃土砂、災害ごみを除く

資料：生活環境課

※コウノトリ共生課で作成

(2) ごみ種別搬入量

(単位：t)

年度	燃やすごみ	燃やさないごみ	びんかん	ペットボトル	プラスチック製容器包装	紙製容器包装	計	水路土砂
2007年	29,226	1,730	941	88	426	198	32,610	425
2008年	26,270	1,586	898	80	424	190	29,448	369
2009年	25,287	1,548	889	73	405	173	28,374	388
2010年	24,798	1,497	863	81	395	162	27,796	412
2011年	25,803	1,497	809	90	382	155	28,736	37
2012年	25,942	1,609	784	90	370	146	28,941	0
2013年	25,507	1,512	752	89	364	139	28,363	0
2014年	25,858	1,457	693	82	348	131	28,569	0
2015年	26,064	1,653	669	82	335	131	28,934	0
2016年	24,507	1,549	582	86	339	122	27,185	0
2017年	24,055	1,606	576	90	330	119	26,776	0
2018年	23,805	1,713	556	95	319	115	26,603	0

資料：生活環境課

(3) 資源ごみ集団回収量

(単位：t)

年度	団体数	紙類	布類	スチール缶	ビン類	アルミ缶	牛乳パック	計
2007年	680	3,747	90	1	30	43	10	3,921
2008年	657	3,477	88	1	27	43	10	3,646
2009年	667	3,323	86	1	25	49	9	3,493
2010年	662	3,261	80	2	20	50	9	3,422
2011年	635	3,078	79	2	17	51	9	3,236
2012年	634	2,916	86	2	16	47	9	3,076
2013年	644	2,913	81	2	14	43	9	3,062
2014年	651	2,777	79	1	13	44	9	2,923
2015年	663	2,575	80	1	12	42	8	2,718
2016年	655	2,384	81	1	10	42	8	2,526
2017年	672	2,312	75	1	9	44	7	2,448
2018年	655	2,215	74	0.9	7	40	7	2,344
補助金単価(※1)		6円	5円	5円	5円	5円	5円	
補助金単価(※2)		7円	7円	2円	2円	2円	7円	

※1 1kg当たりの単価。ビン類(1升ビン、ビール瓶が対象)は2本を1kgに換算。

資料：生活環境課

※2 2012年度から補助金単価を変更。

8 指定文化財

(2019年3月31日現在)

種別等		国	県	市	計	
有形文化財	建造物	建造物	6	6	43	55
	美術工芸品	絵画	1	6	18	25
		彫刻	4	13	30	47
		工芸品	1	1	18	20
		書跡・典籍	-	1	30	31
		古文書	-	-	8	8
		考古資料	-	6	15	21
	歴史資料	-	1	3	4	
無形文化財	無形文化財保持者	-	-	1	1	
民俗文化財	有形民俗	-	1	7	8	
	無形民俗	-	2	9	11	
史跡名勝 天然記念物	史跡	2	6	30	38	
	名勝	1	3	8	12	
	天然記念物	2	12	20	34	
	〃(地域を定めず)	7	-	-	7	
	特別天然記念物	-	-	-	-	
	〃(地域を定めず)	2	-	-	2	
伝統的建造物群	伝統的建造物群保存地区	1	-	-	1	
登録有形文化財	建造物	20	1	-	21	
合 計		47	59	240	346	

資料：教育総務課

9 エネルギー

(1) 電灯・電力消費量

(単位：千kWh)

年度	総 量	電 灯	電 力	その他
2010年	296,084	254,286	41,798	非公表
2011年	287,049	247,345	39,704	非公表
2012年	278,367	240,801	37,566	非公表
2013年	274,968	236,386	35,923	非公表
2014年	262,558	226,692	33,736	非公表
2015年	253,508	218,858	32,725	1,925
2016年	非公表	非公表	非公表	非公表
2017年	非公表	非公表	非公表	非公表
2018年	非公表	非公表	非公表	非公表

※電灯とは、定額電灯、従量電灯、公衆街路灯、時間帯別電灯

資料：関西電力株式会社

※電力とは、深夜電力、低圧電力、事業用電力

※その他とは、建設工所用、臨時電灯・電力、農事用電力、融雪用電力

※特定規模需要（自由化対象需要）の実績は含まない。

※2016年度から、一般家庭の電力も自由化対象となり非公表

(2) ガスの業種別需要状況

(単位：千m³)

年度	総 数	家庭用	業務用			
			計	商業用	工業用	その他
2010年	7,363	2,804	4,559	2,059	36	2,464
2011年	7,217	2,739	4,479	2,020	28	2,431
2012年	7,184	2,672	4,512	2,109	25	2,378

2013年	7,538	2,558	4,980	2,604	19	2,357
2014年	7,620	2,546	5,074	2,709	17	2,348
2015年	7,375	2,412	4,962	2,701	19	2,243
2016年	7,589	2,394	5,195	2,779	16	2,400
2017年	7,668	2,462	5,205	2,786	15	2,404
2018年	7,435	2,289	5,145	2,813	16	2,316

※供給ガスの熱量は45MJ/m³ (10,750Kcal/m³)

資料：(株)豊岡エネルギー

(3) 太陽光発電システム設置状況

(単位 出力：kW；削減量：t)

設置年度	住宅		公共施設・事業所	
	出力	CO ₂ 削減量	出力	CO ₂ 削減量
2006年	106.7	33.6	3.0	0.9
2007年	87.7	27.6	4.8	1.5
2008年	121.2	38.1	40.3	12.7
2009年	254.4	67.4	8.7	2.3
2010年	301.4	79.9	399.7	105.9
2011年	350.5	98.5	23.8	6.7
2012年	407.6	168.8	695.2	287.8
2013年	346.8	164.8	1,027.6	488.1
2014年	131.1	67.6	5.5	2.8
2015年	147.2	77.0	1,123.0	587.3
2016年	161.8	80.3	25.0	12.4
2017年	201.1	99.1	0	0
2018年	124.0	51.8	0	0
計	2741.5	1054.5	3,356.6	1,508.4

※CO₂削減量は環境省のデータにより算出

資料：コウノトリ共生課

10 下水道普及率

年 度	処理区域 (ha)	供用開始人口 (人)	普及率 (%)	水洗化済人口 (人)	水洗化率 (%)
2010年	3,077	87,789	99.9	78,869	89.8
2011年	3,083	87,003	99.9	78,740	90.5
2012年	3,085	86,917	99.9	79,364	91.3
2013年	3,089	86,165	99.9	78,957	91.6
2014年	3,090	85,236	99.9	78,323	91.9
2015年	3,094	84,333	99.9	78,083	92.6
2016年	3,094	83,549	99.9	77,644	92.9
2017年	3,096	82,055	99.9	76,724	93.5
2018年	3,096	80,868	99.9	75,813	93.7

資料：下水道課

第4部 市の取組み実績

■市の取組みについて

環境基本計画第5章「取組みの方向と行動指針」に基づき、市の取組み実績を整理しています。

行動指針 1 森林を利用し、保全します

(1) 自然豊かな森林の保全、創造

- ①多様な動植物の生息・生育環境を守るため、森林の保全
- ②無秩序な森林開発を抑制
- ③針葉樹と広葉樹の針広混交林整備を進め森林の保全

(2) 地元産材の利用促進

- ①地元産、国内産の木材を利用

- ②ペレットストーブや薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器の設置・利用促進

(3) 災害に強い森づくり

- 土砂災害防止、水源かん養など森林の有する機能を維持増進

(4) 森林での自然体験、ボランティア活動

- ①森林を体験学習、保健休養の場として活用

- ②間伐、枝打ちなどの森林ボランティア活動を検討

(5) 森林の持つ多面的機能などのPR

- 森林の持つ多面的機能など、森林の適正管理の重要性についてのPR

(6) 森林を活用する新たな方法の研究と実用化

- 森林ツーリズムなど、新たな活用方法を検討

《行動指針 1 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
除間伐等面積(市行造林)(ha)	73.57	68.60	27.38	32.92	50.74	75.51	50.83	61.82	35.6	32.32	26.0	23.69	農林水産課
間伐材による土留工数(箇所)	102	192	188	158	107	56	22	24	20	22	20	37	農林水産課
広葉樹植樹面積(ha)	0.90	1.37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	農林水産課
〃 苗木提供数(本)	420	300	137	117	86	130	53	35	60	40	30	35	農林水産課
豊岡産ペレット製造量(t)					293	516	644	684	534	382	337	288	農林水産課
市施設木造・木質化・ペレットストーブ導入数													
(新築)(棟)	1	5	3	0	4	2	1	4	1	3	2	1	建築住宅課
(増築)(棟)	0	3	1	2	1	2	1	1	0	1	0	0	建築住宅課
ペレットストーブ設置数(台)	1	5	3	0	4	27	0	18	0	0	0	0	農林水産課
ペレットボイラー設置数(台)			1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	農林水産課
特用林産物生産量(kg)										420,786	461,151	397,808	農林水産課
住宅用ペレットストーブ設置補助数(件)					6	5	8	17	8	7	9	7	コウノトリ共生課 (平成29年度まで エコバレー推進課)
〃 補助金額(万円)					102	90	143	282	138	129	151	124	
住宅用ペレットボイラー設置補助数(件)						0	0	0	0	0	0	0	
〃 補助金額(万円)						0	0	0	0	0	0	0	

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
住宅用薪ストーブ設置補助数(件)							5	22	14	11	9	9	コウノトリ共生課 (平成29年度まで エコバレー推進課)
〃 補助金額(万円)							99	435	280	220	180	180	
住宅用薪ボイラー設置補助数(件)							0	2	0	0	0	0	
〃 補助金額(万円)							0	34	0	0	0	0	
奈佐森林公園利用者数(人)	5,036	5,482	5,081	3,606	3,874	4,703	4,367	4,737	5,167	5,532	4,084	4492	農林水産課
竹野南森林公園体験教室開催数(回)	6	6	6	6	6	5	7	6	6	7	6	7	竹野 地域振興課
〃 参加者数(人)	79	91	96	84	103	120	169	91	117	122	115	118	
竹伐採ボランティア数(人)	32	25	15	—	49	116	123	105	19	0	0	0	コウノトリ共生課

行動指針2 川や海などの水辺環境を保全します

(1) 多自然型の川づくり、砂浜の侵食防止

- ①人と自然がふれあえる多自然型の川づくりを促進
- ②砂浜の侵食を防ぐなど海辺の保全を促進

(2) 多様な生きものが生息できる水辺環境の保全

多様な生きものが生息できる水辺づくりを促進

(3) 河川等での環境美化活動

- ①地域等で行われる川や海辺の清掃活動を促進
- ②海などでの漂着ごみの撤去
- ③川や海に流れ込む草、わらを削減するよう啓発
- ④川や海にごみを捨てないよう啓発

(4) 水の利用と水質の保全

- ①水道の水質の向上、水量の確保
- ②節水や水の再利用

- ③下水道の整備、利用促進により水質の悪化を防止
- ④農業排水による川の水の濁り防止について啓発

(5) 水産業の振興

- ①資源管理型漁業(自主的な採捕制限)を促進
- ②魚礁の設置など自然環境に配慮した漁場の拡大
- ③稚魚の放流など水産資源の維持育成を促進
- ④水産加工ごみの効率的な処理や有効活用を支援

《行動指針2に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
湿地整備面積(新規)(ha)	—	3.20	—	—	—	5.42	—	—	—	—	—	—	コウノトリ共生課
湿地管理ボランティア数(人)			457	521	190	208	312	212	249	402	457	426	コウノトリ共生課
漁港漂着ごみ清掃委託数(箇所)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	農林水産課
海岸清掃・管理委託数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	建設課
海岸漂着物地域対策(GND事業)(t)				34.88	28.84	0.00	13.90	30.90	5.10	16.32	17.69	21.88	生活環境課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
不法投棄監視カメラ(台)				6	6	6	6	6	6	6	6	6	生活環境課
不法投棄防止看板設置・配布数(枚)	28	56	44	16	70	50	40	40	30	15	55	79	生活環境課
上水道配水量(1人/日)(ℓ)	438	439	434	440	429	424	427	423	426	421	424	428	水道課
簡易水道配水量(1人/日)(ℓ)	419	412	395	411	399	398	395	392	416	423	(※)		
水洗化率(%)	86.2	88.2	88.8	89.8	90.5	91.3	91.6	91.9	92.6	92.9	93.5	93.7	下水道課
(公共下水道)	85.5	87.6	88.3	89.5	90.1	91.0	91.3	91.6	92.3	92.7	93.3	93.7	
(集落排水等)	88.6	90.2	90.8	91.1	92.0	92.5	92.7	92.9	93.6	93.9	94.3	93.9	
魚礁設置数(個)	113	0	98	120	0	0	110	88	57	48	44	64	農林水産課
河川の稚魚・貝放流補助金(万円)	81	188	191	173	191	191	191	191	191	191	167	183	農林水産課

※簡易水道事業は、平成29年度から上水道事業に統合。

行動指針3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します

(1) 環境創造型農業の推進

- ①農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業を推進
- ②多様な生きものの生息場所、降雨時の保水のため、農地の保全を促進
- ③「コウノトリ育む農法」を推進し、たくさんの生きものが住む農地の拡大を促進
- ④田んぼに生きものが生息できるための魚道等の

整備を促進

- ⑤耕作放棄地の拡大防止

(2) 元気が出る農業づくりの推進

- ①安全・安心な農産物生産を促進
- ②消費者と農業者との交流を促進
- ③県(森林動物研究センター)と連携し、有害鳥獣の計画的な駆除・防除
- ④シカ肉やイノシシ肉などの食材としての利用拡大

策を検討

(3) 畜産業の振興

家畜ふん尿をたい肥として利用する耕畜連携を促進

(4) グリーンツーリズムの推進

農家民宿、市民農園などによる体験交流型農業を促進

《行動指針3に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
コウノトリ育む農法作付面積(ha)	157.0	183.1	212.3	219.5	234.1	251.6	269.7	292.7	329.3	366.1	407.1	418.8	農林水産課
農地・水・農村環境保全活動組織(組織)	133	133	133	133	133	114	116	116	124	133	125	121	農林水産課
冬期湛水水田面積(ha)	20.4	64.8	72.2	83.5	137.0	189.3	212.4	251.7	254.3	401.1	423.02	438.1	農林水産課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
育むお米 取扱店舗数 (店舗)			325	400	500	500	500	500	500	500	500	500	農林水産課
魚道設置箇所 (累計) (箇所)	106	107	110	111	111	111	111	112	141	140	140	151	農林水産課
コウノトリの舞 認証団体数 (団体)	39	43	41	44	46	49	52	55	54	53	52	50	農林水産課
〃 農産物数 (品目)	31	34	33	32	29	29	31	39	30	31	26	23	
〃 食品数 (食品)			1	2	2	5	6	6	6	5	2	2	
J A たじま作物別生産部会数 (部会)	33	33	33	27	27	27	27	27	34	34	34	34	農林水産課
中山間地域等生産活動支援地区数 (地区)	39	39	38	32	32	32	36	36	40	40	40	41	農林水産課
農地転用面積 (許可書交付) (ha)		10.5	6.4	6.1	4.9	7.9	8.5	6.9	6.4	7.8	6.3	10.1	農業委員会
遊休農地面積 (調査時の概括) (ha)		116.5	132.5	132.8	127.7	100.6	68.8	66.9	71.6	64.1	76.1	83	農業委員会
耕畜連携堆肥利用事業面積 (ha)	125.0	135.4	152.2	152.8	150.8	165.1	167.2	181.3	148.4	164.9	170.3	183.5	農林水産課
市民農園設置数(箇所)	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	農林水産課
同区画数(区画)	326	371	253	253	253	253	213	213	213	213	345	345	
同利用区画数(区画)	192	137	194	194	194	201	185	133	170	138	138	138	
農家民宿数 (戸)	5	5	5	5	5	5	5	4	4	—	3(+13)	4	農林水産課

- ・湿地整備は行動指針 2 に記載
- ・有害鳥獣の駆除、防除は、行動指針 5 に記載

行動指針 4 農林水産業の新たな担い手を育成します

(1) 農林水産業の担い手育成

豊岡農業スクールなどにより、農林水産業の担い手の育成、確保

(2) 農林水産業の就業環境改善支援

技術指導や住宅提供など、新規就労者への生活支援

(3) 農林水産業の魅力の発信

豊岡における農林水産業の魅力を、広く全国にPR

《行動指針 4 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
農業スクール研修生(人)							3	2	2	3	4	6	農林水産課
認定農業者数(経営体)	110	116	110	113	115	119	122	134	132	131	129	133	農林水産課
集落営農組織数(集落)	32	37	39	40	41	41	45	49	52	53	55	57	農林水産課
農業法人数(法人)	10	11	11	13	16	19	19	20	21	24	27	30	農林水産課
林業法人数(法人)	1	1	1	1	1	2	3	3	3	3	3	3	農林水産課

行動指針 5 生き物がバランス良く生息する自然環境を保全します

(1) 多様な生きものの生息環境の保全

- ①ビオトープづくりを推進
- ②農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業を推進
- ③自然環境に配慮した多自然型の工事
- ④開発にあたっては、野生動植物の生息・生育環境に配慮し、保全
- ⑤生きものとふれあう体験学習の場を提供

(2) 野生動植物の保護

- ①野生動植物の生息・生育状況を調査し、情報を提供
- ②希少動植物を保護
- ③ペット動物は責任を持って飼育するよう啓発
- ④地域固有の生態系を保全するため、外来種を持ち込まないよう啓発
- ⑤シカやイノシシ、クマなどの生息環境を保全し、健全な里山づくり

(3) 野生動物対策の推進

県(森林動物研究センター)と連携し、有害鳥獣の計画的な駆除・防除

(4) コウノトリの野生復帰の受け皿づくり

- ①コウノトリのエサ場、ねぐらなど生息環境保全
- ②コウノトリ野生復帰の取組みの様々な情報を発信

《行動指針 5 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
ビオトープ水田面積(ha)	16.0	12.5	7.8	11.9	12.2	12.7	12.5	12.4	12.8	12.6	12.6	14.4	コウノトリ共生課
生きものとふれあう体験学習(公民館)(館)	3	5	5	5	6	7	7	6	5	2	3	4	コウノトリ共生課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
〃 (小学校) (校)	1	4	5	14	12	20	16	17	13	12	10	11	
コウノトリ KIDS クラブ (人)				14	24	19	12	12	16	5	5	21	コウノトリ共生課
コウノトリ KIDS クラブ (回)				7	9	8	8	8	9	8	10	10	
コウノトリ情報誌 「FLY TO THE WILD」発行 (回)	4	4	4	3	3	1	0	0	0				コウノトリ共生課
小さな自然再生活動 支援助成事業 (件)					2	3	1	4	8	10	9	14	コウノトリ共生課
ペット飼育マナー啓発 (広報掲載) (回)	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
〃 (チラシ配布) (回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
外来種 (魚) 駆除回数 (回)		1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	コウノトリ共生課
防護柵設置延長(補助金分) (m)	43,021	24,730	71,628	42,174	69,679	73,557	19,290	37,530	42,713	93,452	91,727	46,260	農林水産課
〃 地区数 (地区)	48	32	47	22	57	29	17	21	29	41	37	18	
〃 個人数 (人)		57	76	42	104	62	28	59	59	51	48	22	
防護柵、捕獲柵等補助金額 (万円)	726	716	9,588	7,740	7,885	9,104	4,204	4,183	5,597	9,437	13,277	5,853	農林水産課
有害鳥獣駆除数 シカ (頭)	1,410	2,238	2,334	3,104	2,689	2,675	3,483	4,041	4,815	4,247	4,476	4,142	農林水産課
〃 イノシシ (頭)	559	779	1,420	1,624	926	751	1,155	1,383	1,809	1,340	988	891	
〃 その他 (頭)	125	95	85	138	85	122	101	183	308	435	645	1,373	
バッファゾーン整備面積 (ha)			19.34	18.93	17.40	26.49	15.00	15.00	15.00	0	0	0	農林水産課
〃 箇所数 (箇所)			4	5	6	5	3	5	5	0	0	0	

行動指針 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります

(1) 大気汚染の防止

- ①大気汚染物質の発生防止を指導、啓発
- ②廃棄物等の野焼き防止を指導、啓発
- ③公共交通機関の利用を促進
- ④アイドリングストップなどエコドライブを推進
- ⑤粉塵の発生防止を指導、啓発

(2) 騒音・振動の防止

- ①基準を超える騒音、振動等の発生防止を指導、啓発
- ②保有車両を適正に点検、整備

(3) 悪臭の防止

- ①悪臭の発生防止を指導、啓発

- ②家畜ふん尿等の適正処理を指導、啓発

(4) 地盤沈下の防止

地下水の利用抑制を促進

(5) 工業等における適切な事業活動の推進

- ①公害の発生を防止し、監視や指導、啓発
- ②公害防止協定の締結により、公害の未然防止
- ③水質汚染・土壌汚染調査を定期的の実施公表

(6) 有害化学物質の適正な管理

有害化学物質の適正な管理を指導

(7) 光害の低減

光害の低減を検討

(8) 災害時の廃棄物処理

廃棄物処理に関する応援協定を踏まえ、災害時の廃棄物の適正な処理

(9) 備蓄物資の適正配置及び循環利用の啓発

備蓄物資の適正配置及び循環利用の啓発に努めます

(10) 災害に強い森づくり

- ①間伐材も含めた地元産木材の利用を促進します。
- ②土砂災害防止、水源かん養林など、森林の有する機能の維持増進
- ③針葉樹と広葉樹の針広混交林整備を進め、森林の保全

《行動指針 6 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
大気汚染の苦情受理件数(件)	6	6	9	9	5	15	5	11	20	11	12	13	生活環境課
JR豊岡市民号利用者数(人)	208	147	142	107	75								都市整備課
市街地循環バス(コバス)利用者数(人)	37,257	37,688	40,744	47,175	47,796	48,216	47,438	50,395	51,066	56,100	57,889	52,574	都市整備課
市営バス(イナカー)利用者数(人)		51,729	93,956	81,736	77,815	79,065	74,543	59,496	58,102	59,130	59,459	53,622	都市整備課
市職員「e通勤」実施者数(人)		49	529	459	449	438	419	417	405	396	396	383	都市整備課
豊岡ノーマイカーデー参加者数(人)						1,181	2,133	1,415	1,697	1,584	1,565	1,445	都市整備課
特定建設作業の届出件数(件)	717	644	619	511	549	528	636	520	395	433	431	645	生活環境課
騒音・振動等特定施設届出施設数(施設)	50	41	16	33	54	25	28	28	43	34	32	23	生活環境課
騒音・振動の苦情受理件数(件)	5	6	6	4	5	3	5	1	5	4	2	6	
悪臭の苦情受理件数(件)	6	5	8	9	6	8	4	7	12	6	6	7	生活環境課
水質・土壌汚染苦情受理件数(件)	20	20	15	13	16	7	1	4	4	7	10	10	

行動指針 7 地域の文化や景観を保全し、活用します

(1) 文化財の保護と活用

- ①文化財の保護活動
- ②開発する際には文化財を保護
- ③文化、歴史の講座を開催

(2) 地域に伝わる伝統行事、文化の継承

伝統行事や文化の継承を支援

(3) 芸術、文化活動の振興

芸術・文化活動の活性化を支援

(4) 地域の特色ある景観の保全

- ①歴史や伝統のある建物、景観を生かしたまちづくりを推進

②まちのシンボルとなる文化、歴史資源の観光への活用

③地域の特色ある景観の保全を促進

④開発時には、地域の景観に配慮

⑤地域の植生にあった植栽

⑥屋外広告物、自動販売機の設置の抑制を検討

⑦地域の地形、地質を考えた土地の利用を促進

⑧地域の風土に合った住宅の建設を促進

⑨地元産材など昔からあった素材の使用を促進

(5) 環境美化意識の高揚

- ①公共施設の緑化や花づくりを推進
- ②街路樹等の適切な管理

③地域の緑化や花づくり活動を促進

④庭に花を植えるなど良好な景観を演出する取組みを促進

(6) 緑豊かな公園の整備

①子どもから高齢者までが安心して遊び、憩えるように配慮

②自然環境、地形、地域の植生に配慮

③開発にあたっては公園の整備

④公園の清掃、適正管理

⑤施設、公園の利用上のルールやマナーの遵守を啓発

《行動指針 7 に関する豊岡市の取り組み》

取り組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
遺跡確認調査件数(件)	7	7	5	5	3	12	8	12	13	16	12	11	教育総務課
文化財防災訓練数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	教育総務課
文化財パトロール数(件)	—	—	226	162	177	107	121	112	125	—	—	—	教育総務課
文化財保護補助金交付数(件)	12	13	14	13	9	7	12	5	6	7	6	4	教育総務課
〃 補助金額(万円)	16	30	518	251	193	33	77	608	1,392	112	24	6	教育総務課
事業に先立つ埋蔵文化財調査数(件)	14	6	9	6	6	8	3	3	14	14	10	11	教育総務課
発掘調査現地説明会数(回)	—	2	1	1	1	0	0	2	1	2	0	0	教育総務課
但馬国府・国分寺館公開講座数(講座)	6	3	4	3	12	11	16	19	11	19	19	5	教育総務課
〃 参加者数(延べ)(人)	332	290	552	238	389	248	417	323	305	643	770	124	教育総務課
日本・モンゴル民族博物館体験講座数(講座)	12	10	23	16	10	7	8	11	9	7	8	8	文化振興課
〃 参加者数(延べ)(人)	94	70	344	162	112	82	94	140	106	169	207	175	文化振興課
伝統芸能伝承事業補助数(件)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	0	教育総務課
〃 補助金額(万円)	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	81	0	教育総務課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
豊岡市美術展出品数(点)	6,893	6,829	6,394	6,281	6,337	6,422	6,316	6,111	5,970	5,925	4,037	3,201	文化振興課
〃 入場者数(人)	10,876	10,644	9,351	9,393	9,411	10,041	9,202	9,116	9,652	9,041	8,503	8,805	
入館者数(出石永楽館)(人)		未計数	14,733	16,370	14,191	15,102	17,751	18,066	25,263	22,316	21,432	24,935	文化振興課
〃 (歴史博物館)(人)	9,204	9,034	10,030	9,512	8,007	8,345	7,727	8,090	8,319	7,120	7,225	6,596	教育総務課
〃 (日本・モンゴル民族博物館)(人)	17,136	16,848	14,591	11,623	10,553	11,755	10,657	10,017	9,840	9,885	13,367	10,852	文化振興課
〃 (豊岡市立美術館伊藤清永記念館)(人)	14,662	12,368	15,582	5,497	6,440	6,834	8,653	9,827	8,350	7,108	10,009	9,874	文化振興課
〃 (植村直己冒険館)	36,849	31,109	28,835	25,259	30,900	22,866	25,062	26,999	26,051	22,651	22,362	23,992	生涯学習課
自主事業入場者数(豊岡市民会館)(人)	9,448	6,018	8,949	8,066	7,175	5,999	9,262	10,297	8,993	5,783	8,590	7,987	文化振興課
〃 (出石文化会館)(人)	1,974	1,790	1,307	1,707	1,260	726	1,295	782	628	290	982	0	
使用者数(豊岡市民会館)(人)	142,938	113,173	108,517	110,204	115,611	107,932	88,071	80,889	94,591	85,745	86,001	99,258	文化振興課
〃 (出石文化会館)(人)	18,193	20,148	20,662	22,769	17,732	17,017	12,915	19,312	17,014	21,211	16,725	6,394	
〃 (豊岡市民プラザ)(人)	105,106	107,005	104,758	113,184	120,973	128,437	123,746	116,678	109,734	119,528	129,245	130,402	生涯学習課
出石伝統的建造物群保存事業補助数(件)		4	5	7	5	6	5	4	5	4	5	3	教育総務課
〃 補助金額(万円)		1,773	2,258	3,581	2,996	3,221	2,331	2,366	2,450	2,490	2,473	1,673	
ジオパークジオガイド養成講座(回)				4	2	20	11	2	1	0	1	1	大交流課
小・中・高生ジオ講座受講者(人)				277	134	60	164	32	0	109	550	198	
屋外広告物の許可数(件)	87	219	125	174	157	219	178	183	157	160	168	159	都市整備課
景観形成事業助成数(件)	5	9	3	8	3	3	5	4	1	6	2	1	都市整備課
〃 助成金額(万円)	98	162	44	1,055	79	93	128	79	17	773	155	25	
花のある道づくり事業植栽花苗数(箇所)	29	29	27	28	27	27	27	27	22	22	22	22	生活環境課
「ヤナギ」植栽管理数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	生活環境課
「サツキ」植栽数(箇所)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
花苗の配布数(団体)	179	209	212	163	161	161	142	110	128	111	111	125	生活環境課
花と緑のまちづくり事業数(回)		5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
都市公園数(箇所)	26	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25	25	都市整備課
開発行為による公園数(箇所)	51	52	52	52	52	52	52	52	53	53	53	53	

行動指針 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます

(1) 河川等での環境美化活動

地域等で行われる川や海辺の清掃活動を促進促進

(2) 地域における環境教育の推進

リサイクルや省エネルギー、地球温暖化等の環境学習・教育推進

(3) 環境を考える事業の実施

- ① 市民環境講座を実施
- ② 環境問題をテーマにした各種イベントを実施
- ③ クールスポットを開設するとともに、より多くの人が集まる企画をすることにより、コミュニティセンターを多世代にわたる交流の拠点

(4) 環境に取り組む団体の育成

地域で環境活動に取り組む団体や個人の育成・支援

(5) 地域コミュニティの取組みへの支援と情報提供

地域コミュニティの取組みを支援し、情報を提供

《行動指針 8 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
コウノトリ文化館市民講座開催回数(回)	4	10	5	3	4	2	4	1	14	22	17	26	コウノトリ共生課
マイバッグ啓発活動実施店舗数(件)	1	11	13	6	8	4	3	3	1	1	1	1	生活環境課
地域力再生補助(環境活動支援)件数(団体)	6	3	5	2	2	2	2	0	0	1			コミュニティ政策課
〃 補助金額(万円)	202	56	48	37	23	38	43	0	0	50			
市民エコポイント発行数(P)						24,888	49,689	41,800					環境経済課 (旧エコバレー推進課)
企業エコポイント発行数(P)						294.5万	483.5万	545.5万					
健康・環境エコポイント制度													
健康ポイント手帳交付者数(人)									4,429	4,860	5,677	5,716	健康増進課
環境行動実践者数(人)									281	535	613		環境経済課 (旧エコバレー推進課)

※市民エコポイントと企業エコポイントは、平成27年から健康ポイントと統合されました。

行動指針 9 環境意識を高める学習・教育を進めます

(1) 環境を考える事業の実施

- ①市民向けの環境学習講座を実施
- ②環境問題をテーマにした各種イベントを実施

(2) 環境に関する学校教育の推進

小中学校において、環境に関する学校教育を促進

(3) ふるさと教育の推進

市内小中学校において、「コウノトリ」「ジオパーク」「産業・文化」を共通の課題に、豊岡の世界に誇れる「ひと・こと・もの」に学ぶ授業を展開

《行動指針 9 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
エコハウス暮らしの講座等実施(回)				8	8	7	1	0	0	0	0	0	環境経済課 (旧エコバレー推進課)
出前講座(環境学習関係)実施回数(回)	6	9	22	23	14	15	71	20	10	12	11	18	秘書広報課
〃 受講者数(人)	257	247	652	703	332	564	3,987	762	188	299	436	406	
子どもの野生復帰大作戦参加者数													
(子どもコース)(人)	155	198	235	152	99	99	83	67	62	61	55		生涯学習課
(指導者養成)(人)	32	12	30	—	—	24	11	0	—	—	—		
(親子コース)(組)	—	—	44	67	52	51	61	66	45	40	42		
(野外キャンプ)(人)	—	159	138	62	72	73	91	115	57	—	91		
(周年型体験プログラム)(人)												80	
(単年型体験プログラム)(人)												86	
(成人対象体験プログラム)(人)												25	
地域の歴史・文化・伝統芸能等の体験教育実施校数													
(小学校)(校)	17	20	22	22	22	23	23	29	23	23	27	29	こども教育課
(中学校)(校)	4	4	4	4	4	7	7	7	8	6	6	4	
地域の自然・歴史・文化に関する資料等作成校数													
(小学校)(校)	8	30	30	30	30	30	30	29	18	21	25	28	こども教育課
(中学校)(校)	1	0	1	1	1	4	4	5	7	4	7	8	
自然学校参加者数(人)		870	862	851	847	828	762	749	747	702	750	718	こども教育課
農業体験(稲作)実施校数(小学校)	13	13	14	20	20	22	20	19	18	20	19	23	こども教育課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
里山観察等実施校数(小学校)		9	8	7	7	20	16	14	18	16	15	26	こども教育課
川の体験活動実施数(小学校)(校)		11	17	19	22	29	27	28	29	29	28	27	こども教育課
小・中学校ファイティ・ファイティシステムによる削減効果(平成26年からシステム見直しのため22年比)※平成25年度以前は17年度比(%)	-5.2	-3.9	-10.7	-7.7	-10.0	-8.6	-11.2	-7.4	-8.2	-7.6			教育総務課
出張！田んぼの学校(回)			3	3	4	11	16	20	24	21	15	16	コウノトリ共生課

行動指針 10 環境に関する知を集積し、活かします

(1) 環境をテーマとした連携の強化・拡大

- ① 高等教育機関を核とした研究者や企業の交流を促進
- ② 異業種の交流を促進
- ③ 環境経済型企業の育成・誘致推進

- ④ 事業者と研究者をつなぎ、産学連携を効果的に推進

(2) 環境を研究する機関との連携・協力

環境を研究する機関との連携・協力の推進

(3) 環境に関するオピニオンリーダーとしての国内外への情報発信

先進的な取組みを、国内外へ発信

《行動指針 10 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
産学連携協定締結数(校)			1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	環境経済課 (旧エコバレー推進課)
稽古堂塾参加者数(人)								20	23	23	24	24	環境経済課 (旧エコバレー推進課)
コウノトリ野生復帰学術研究補助(件)		4	9	8	5	7	7	7	6	—			コウノトリ共生課
高校生等地域研究支援補助金(件)										2	3	7	コウノトリ共生課

行動指針 11 ごみの減量、再資源化を進めます

(1) ごみの減量化

- ①ごみの適正な分別を促し、ごみの減量化を推進
- ②レジ袋削減、マイバッグ持参運動を推進
- ③パンフレット、チラシ等の削減を推進
- ④5 R運動を推進
- ⑤レジ袋の有料化、包装の簡略化など環境への負荷を低減する販売方法を促進
- ⑥環境への負荷を低減する製品の開発を促進
- ⑦ごみや汚泥の広域処理計画推進

(2) ごみの再資源化

- ①地区、P T A等による資源ごみの回収活動を支援
- ②再生資源利用製品を購入
- ③学校での児童・生徒によるリサイクル活動を推進
- ④量販店等による空き容器、牛乳パック、食品トレーなどの拠点回収を支援
- ⑤家庭から出る生ごみたい肥化を支援

(3) ごみの減量化・再資源化のための啓発

ごみの減量化・再資源化のための啓発

(4) 事業活動による廃棄物の適正処理

- ①産業廃棄物、建設廃棄物の適正な処理を促進
- ②建築廃材の再利用を促進
- ③農業廃棄物のリサイクルを促進
- ④食品廃棄物の回収システムを検討
- ⑤食品廃棄物の堆肥化を促進

《行動指針 11 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
ごみ搬入量 (t)	32,610	29,448	28,374	27,796	28,736	28,944	28,362	28,568	28,934	27,185	26,776	26,603	生活環境課
〃12年度(42,878 t)との比較 (%)	-24	-31	-34	-35	-33	-33	-34	-33	-32	-36	-38	-38	
レジ袋有料化等協定数 (件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
資源ごみ集団回収量 (t)	3,921	3,646	3,451	3,422	3,242	3,076	3,062	2,922	2,718	2,526	2,448	2,344	生活環境課
〃補助金申請団体数(延べ) (団体)	680	657	664	662	635	634	644	651	663	655	672	655	
〃補助金額 (万円)	2,335	2,171	2,054	2,037	1,926	2,120	2,114	2,017	1,875	1,740	1,687	1,617	
資源ごみ常設回収庫補助件数 (地区)	1	2	3	4	0	1	1	2	0	1	1	3	生活環境課
市単価契約物品のうち再生利用品 (品目)	108	97	101	94	95	89	89	89	89	89	90	92	総務課
〃グリーン購入法適合品 (品目)	66	53	60	52	78	88	67	69	69	69	70	72	
〃エコマーク付商品 (品目)	45	39	81	27	28	57	50	53	53	53	54	60	
学校資源ごみ回収実施校数 (小中学校) (校)	10	12	28	28	34	36	35	29	36	33	33	34	こども教育課
学校でのリサイクル活動 (小学校) (校)	2	26	24	23	28	30	29	29	29	29	29	29	こども教育課
〃 (中学校) (校)	3	8	6	6	10	10	10	10	9	9	9	9	
空き容器回収機回収量 (万本)	118	222	249	212	101	79	25	—	—	—	—	—	生活環境課
電気式生ごみ処理機補助金件数 (件)	137	106	83	84	90	36	48	37	34	27	20	24	生活環境課
クリーン但馬 10万人大作戦参加人員 (人)	36,909	36,459	30,124	37,964	32,449	37,256	36,594	37,040	35,839	37,502	34,054	40,576	生活環境課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
〃 ごみ回収量 (t)	373.61	397.94	379.32	461.32	472.08	558.42	565.88	694.1	597	527	458	591	
犬のフン啓発看板配布数 (枚)	32	47	91	41	33	25	25	25	20	6	8	20	生活環境課
豊岡市農業用廃プラスチック 適正処理対策協議会処理 (件)	333	302	303	244	275	317	274	259	337	323	322	365	農林水産課
〃 処理量 (kg)	41,310	38,720	44,035	21,440	42,490	41,940	33,764	36,885	39,021	42,203	34,797	37,628	
再生利用業者指定数(件)	3	—	1	4	4	5	6	6	6	6	6	6	生活環境課

行動指針 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます

(1) 日常生活における環境負荷の確認

- ①家庭での節水や節電など環境行動を普及啓発
- ②環境家計簿を普及啓発

(2) 再生可能エネルギーの利用

- ①太陽光発電システムを公共施設に率先して導入
- ②個人住宅への再生可能エネルギーの導入を支援
- ③再生可能エネルギーの導入、利用の推進

(3) 自動車から排出する二酸化炭素の削減

- ①アイドリングストップなどのエコドライブを促進
- ②京阪神等遠隔地へは公共交通機関利用を促進
- ③低公害車・低燃費車などいわゆるエコカーを購入
- ④保有車両を適正に点検
- ⑤共同輸配送など車の利用の合理化

(4) 省エネルギーの推進

- ①省エネルギーを考えて施設や設備を整備
- ②LEDなど省エネルギー対応の器具を購入
- ③使用しない電気機器は電源を切る
- ④冷暖房温度を適切に設定 (夏 28 度、冬 19 度)
- ⑤自動販売機の設置抑制を検討

《行動指針 12 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
市施設への太陽光発電設置数(箇所)	1	5	3	28	2	3	5	1	1	1	0	0	コウノトリ共生課 (平成 29 年度まで エコバレー推進課)
〃 設置量 (kw)	4.80	17.71	8.40	399.70	23.76	695.22	350	5.5	1,123	25	0	0	
住宅用太陽光発電設置補助件数 (件)	23	34	66	73	78	88	78	30	29	37	40	27	
〃 設置量 (kw)	87.68	121.16	254.41	301.40	350.53	407.65	346.88	138.41	147.19	205.42	240.22	155.71	
〃 補助金額 (万円)	412	586	1,199	1,288	1,449	1,191	1,003	335	341	446	526	385	
エコアクション 21 認証企業 (社)							5	5	5	6	2	0	環境経済課 (旧エコバレー推進課)

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
アイドリングストップ啓発回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
街灯のLED化補助(件)						248	302	565	596	1,092	1,362	1,427	生活環境課
但馬空港飛行機利用助成人数(人)	11,508	11,292	13,007	12,582	12,134	10,387	12,367	12,457	11,379	11,507	12,397	15,756	都市整備課
〃 助成金(万円)	6,515	6,872	6,468	5,963	5,749	5,019	5,819	6,046	5,711	5,646	5,919	7,274	
低公害車・低燃費車購入台数(台)	27	11	3	—	—	—	—	—	—	0	0	0	総務課
公用車 低公害車・低燃費車割合(%)		49.4	53.8	57.7	64.0	62.5	70.5	70.0	68.7	65.9	80.9	82.6	
省エネ器具購入数(件)	27	11	34	37	17	11	13	12	19	45	46	40	総務課
市の施設のCO2削減(%) (H19排出量比)				5.10	8.04	8.44	9.76	12.91	14.51	19.86	22.37	24.76	総務課
校園庭芝生化事業の実施(校園)			7	14	9	9	5	2	0	0	0	0	教育総務課
校園庭芝生化事業の実施(m ²)			15,880	32,220	29,880	28,440	15,520	3,650	0	0	0	0	教育総務課

行動指針 13 地産地消を進めます

(1) 安全、安心な農林水産物の地元消費

- ① 地元でとれた安全・安心な農林水産物を学校給食に使用
- ② 地元でとれた安全・安心な農林水産物の地元消費を促進
- ③ 食品の産地表示促進

(2) 消費者と農林水産業者との交流

消費者と農林水産業者との交流を促進

(3) 食生活の向上と食育

- ① エコクッキング(環境にやさしい料理法)などを普及啓発
- ② 旬の野菜や伝統食の良さを普及啓発
- ③ 食に関する情報を提供
- ④ 乳幼児から発達段階に応じた食育を推進

《行動指針 13 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
学校給食での豊岡産野菜利用率(%)	27.6	28.6	31.1	28.0	26.8	23.1	22.8	28.9	27.1	22.0	25.2	28.8	教育総務課
学校給食での米飯給食回数(週5日のうち)													
市内産米(回)	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	教育総務課
うちコウノトリ育むお米(回)	0	0	1	1	2	2	2	2	3	5	5	5	
コウノトリの舞認証農産物数(品目)	31	34	33	32	29	29	31	39	30	31	26	23	農林水産課

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
〃 加工品数(商品)			1	2	2	5	6	6	6	5	2	2	
マロニエの里認証商品数(商品)	47	46	23	21	21	21	15	20	14	0	0	0	日高・地域振興課
旬を楽しむ会実施回数(回)								2	2	2	1	0	環境経済課
〃 延べ参加人数(人)								200	200	200	100	0	(旧エコバレー推進課)
市広報での食育PR回数(回)			6	6	4	4	3	0	0	0	0	0	健康増進課
成人向け栄養改善教室実施回数(回)	58	57	80	96	201	240	192	179	138	137	126	211	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)	988	810	1,483	1,969	2,967	2,419	2,033	2,165	1,991	1,995	1,828	2913	
食育教室(保育園・幼稚園)実施回数(回)	14	17	32	36	34	36	33	38	36	36	36	29	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)	420	589	767	874	745	861	919	1,193	1,056	1,077	969	570	
〃(未就学児・保護者)実施回数(回)	24	13	23	78	77	80	40	33	36	45	36	33	
〃 受講者数(延べ)(人)	357	175	365	405	546	611	550	583	498	724	629	584	
離乳食講習会実施回数(回)	88	90	88	90	90	90	87	87	87	88	89	89	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)	1,362	1,535	1,326	1,478	1,344	1,458	1,373	1,220	1,175	1,235	1,147	1029	
幼児食講習会実施回数(回)		123	123	106	106	106	98	97	96	94	94	91	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)		800	1,512	1,444	1,519	1,435	1,517	1,316	1,362	1,222	1,151	1144	
子育てセンター食育事業回数(回)	33	21	14	22	23	18	18	23	36	52	50	50	こども育成課
保育園料理教室等開催園数(園)	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	25	26	こども育成課

- ・食品の産地表示促進(コウノトリの舞認証農産物)は行動指針3に記載
- ・農薬や化学肥料に頼らない農産物は行動指針3に記載

行動指針 14 環境と経済の共鳴を進めます

(1) 豊岡型地産地消の推進

- ① 農薬や化学肥料に頼らない農産物のブランド化を支援
- ② 朝市や農林漁業体験活動を支援
- ③ エコ商品開発、リサイクル等の環境経済型の事業(エコビジネス)を促進

(2) コウノトリツーリズムの展開

- ① コウノトリ、自然、歴史、文化資源等を生かした多様なツーリズム推進
- ② 市民によるツーリズムガイドの養成

(3) 環境経済型企業の集積

- ① 環境経済型企業の育成・誘致の推進

- ② 環境経済型の技術開発やゼロエミッションに取り組む企業を支援
- ③ 異業種交流を促進

(4) 環境ビジネスの創出支援

- 排出されたごみを可能な限り再利用する循環型の経済活動を支援

《行動指針 14 に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	関係課
直売所設置数(件)	36	42	40	40	39	39	39	39	39	39	34	34	農林水産課
ファーマーズマーケット設置数(件)	5	5	6	6	7	6	6	6	6	6	1	1	農林水産課
コウノトリ文化館入館者数(人)	455,373	417,159	365,349	301,575	297,056	305,712	304,348	297,232	285,449	230,734	232,751	218,704	コウノトリ共生課
ツーリズムガイド利用者数(人)		8	269	674	626	279	217	206	281	247	187	133	コウノトリ共生課
環境経済事業推進補助金(件)	4	5	8										環境経済課
〃 補助金額(万円)	425	499	661										(旧エコバレー推進課)
技術革新等支援事業補助金(件)				7	6	8	2	4	1	4	4	2	環境経済課
(環境経済型関係)〃 補助金額(万円)				1,036	1,329	1,371	321	330	303	505	751	379	(旧エコバレー推進課)
環境経済認定事業数(件)						35	6	5	10	6	8	6	環境経済課
													(旧エコバレー推進課)

第5部 環境審議会意見の反映状況

(市の取組み)

■環境審議会意見の反映

環境報告書で示された環境審議会の意見を、市がどのように施策に反映させたかを整理しています。

目標像①「豊かな森」

■木質バイオマス利用への消費者の意識改革を促す取組みについて

■農業用のストーブ・ボイラーや普及が進んでいない事業所等の施設への周知・働きかけについて

【コウノトリ共生課】

- ・市公式ホームページや市広報紙を活用して、住宅用および事業所用木質バイオマス利用機器購入補助制度の周知を行っています。また、適切な利用を広めるため、機器の手入れの必要性についても周知に努めます。

【農林水産課】

- ・ペレット製造施設「株式会社豊岡ペレット」のホームページによるPRを引き続き行っています。また、ペレットボイラーを導入した温泉施設等での説明板やパンフレット設置、そして学校や地区公民館等でのペレットストーブ稼働により、施設利用者をはじめとする市民や観光客等のバイオマスエネルギー自給に対する理解と認識が深まりつつあります。これに伴い、成熟している人工林資源を計画的に伐採・利用し、収益が森林所有者に還元され、再び植林・保育・伐採・利用と続く林業生産サイクルが円滑に循環する「資源循環型林業」の取組みも進みつつあります。
- ・住宅用および事業所用ペレットストーブ購入補助制度の活用を促すため、市広報やホームページを活用し引き続き普及に努めます。なお、市が管理する施設への設置は完了しているため、新たな設置は考えていません。

目標像②「里山」

■クマの適正な駆除と山の安全確保策について

■里山がバッファゾーン(緩衝地帯)として機能するような、里山の利活用について

【農林水産課】

- ・クマ対策については、県が定める「ツキノワグマ管理計画」に基づき適正に対処しなければなりません。市民から寄せられる目撃情報や痕跡情報を地元集落や県、警察、教育委員会などの関係機関と早期に共有するとともに、市の広報紙や全集落への回覧文書などで定期的に注意喚起を行っています。また、寄せられた情報をもとに、市の鳥獣害対策員が現地へ出向き、誘引物の除去など防除対策の指導を行うとともに、独自の痕跡調査によって悪質個体を早期に見極め、県の判断により、有害捕獲で殺処分しています。2017年7月からは集落近くのシカやイノシシの捕獲檻を活用したクマの捕獲許可が出されたり、2016年度からはクマの狩猟が解禁されるなど、捕獲対策を強化しています。
- ・里山整備に対する地域の関心が高まりつつあるなか、地区からの要望に応えるべく県民緑税を活用した野生動物共生林整備を計画的に実施し、集落沿いの森林のバッファゾーン化を継続的に整備し、有害鳥獣の被害防止に寄与しています。また、里山防災林整備も要望箇所を順次事業実施し、森林の防災機能を高めています。このほか、地域住民が自主的に行う森林整備を支援するため、同じく県民緑税を活用した住民参画型森林整備の活用も紹介、実施しています。

目標像③「田んぼ」

■各小学校区内へのビオトープ設置について

【コウノトリ共生課】

- ・休耕田を活用した水田ビオトープは、2018年度末時点で11.4haあり、市内にある29の小学校区の内65校区に設置されています。水田ビオトープはコウノトリのエサ場としてだけでなく、子どもたちの環境学習の場としての機能も有しています。今後も「小さな自然再生活動支援助成事業」による支援および周知を行い、水田ビオトープの増設を目指します。

■コウノトリ育む農法拡大に向けての農家への働きかけについて

【農林水産課】

- ・無農薬栽培技術の向上と普及を図るため、2005年度から取り組みを続けてきた「コウノトリ育む農法・無農薬栽培」の知見や技術、および2014年度から実施した「ポット成苗」を用いた無農薬栽培の実証結果に基づき「コウノトリ育む農法・無農薬栽培マニュアル」を作成しました。市内で「コウノトリ育む農法」に取り組む生産者全員(約240人)に無償配布し、2018年産の栽培から活用されています。個々の生産者への働きかけは行っていませんが、補助制度やマニュアル作成により、コウノトリ育む農法の拡大を促進していきます。

また、無農薬栽培等の面積拡大と収穫量および品質の高位安定を図るため、農業用機械の購入および育苗施設の整備に対する支援を2017年度から行っています。さらに、生産されたコメの販売が当農法の持続可能性に非常に大きく影響するため、販路拡大による面積拡大に重点的に取り組んでいます。

■学校給食でのコウノトリ育むお米使用の趣旨の児童・保護者への周知について

【教育総務課】

- ・学校給食では、2016年度からコウノトリ育む農法栽培米(減農薬栽培米)の使用を週5回とし、ホームページや献立表に掲載して周知するとともに、学校での栄養教諭による食育指導時にも取り入れて趣旨の説明を行っています。

目標像④「川・海辺」

■PTA活動や子ども会の活動で川や海辺を利用している事例の情報提供について

【生涯学習課】

- ・子どもの野生復帰事業、豊岡地域子ども会連絡協議会事業において、市内の河川、海辺を利用した体験事業を実施しています。小・中学校の児童または生徒にチラシを配布し、関係機関、関係施設等にもチラシを配布し周知に努めています。また、市のホームページにも参加者の募集記事や活動の様子を掲載し、取組みを広く情報提供しています。

■河川の法面などの刈草による下流域や海岸部の実態を伝えるなど、対策推進の働きかけについて

【こども教育課】

- ・城崎中学校は、毎年、地元の小学生や保護者、地域の人たちに呼びかけて、温泉街の川の清掃活動を行っています。また、港地区の港中学校、港東小学校、港西小学校も、地域と一体となって、毎年、気比の浜の清掃活動を行っています。そして、刈草だけに限定はしていませんが、ふるさとの浜をきれいに保つために、川にごみをすてないよう、円山川上流域にある学校にポスターを配布し啓発活動もを行っています。

【竹野振興局地域振興課】

- ・台風等によって、刈り取られた大量の草が海岸に漂着した場合は、海岸の景観保持のため、回収を行っています。また、下流域や海岸部の実態を伝える対策については、関係機関と連携して今後検討していきます。

【農林水産課】

- ・刈草のみではありませんが、海浜等清掃活動実施状況調査(全国ごみマップ)で海浜等における清掃活動等の状況を(公財)海と渚環境美化・油濁対策機構へ報告し、とりまとめた報告書は機構ホームページに掲載され活動を発信しています。

目標像⑤ 「生態系」

■「豊岡市生物多様性地域戦略」の更なる推進について

■「ノアの方舟作戦」対象エリアの拡充について

【コウノトリ共生課】

- ・シカ等の食害による生物多様性の減少を食い止めるため、2018年度末時点で7地区9カ所に防護柵を設置しています。有識者からの報告・助言を参考に、希少種のみならず地域の植生を守るために、今後も新たな防護柵の設置を検討します。しかし、植生被害を効果的に食い止めるためには、防護柵を設置するだけでなく、有害鳥獣対策によるシカ、イノシシの駆除を並行して実施する必要があります。シカ、イノシシの個体数減少と併せて植生への被害減少が見込まれた段階で、いずれは防護柵を撤去することが望ましいと考えます。

目標像⑥ 「祭り・行事」

■中学・高校生が参加できる地域の行事やふるさとを学べる機会の提供について

■秋祭りの日程を学校行事と重ならないよう調整することの必要性について

【コミュニティ政策課】

- ・地域コミュニティ組織が主催するスポーツ、レクリエーション大会、文化行事へ中高生の参加が見

られます。また、吹奏楽部や茶道部の活動の一環として、地域コミュニティ組織と協働で演奏会やサロン活動に関わり地域住民との交流も見られます。

一方、これらの参加は一部の生徒に留まり、また地区によってはほとんど参加が見られない等、地域差もうかがえます。

【こども教育課】

- ・各学校で、夏休みのラジオ体操や市民総参加訓練への参加を呼びかけました。今後も、学校・家庭・地域の連携を図りながら、生徒の地域行事への参加を呼びかけていきます。

目標像⑦「自然」

■スクールインタープリター(※)の活用検討について

(※)小学校の生活科や総合学習の自然に関わる部分の学校サポーター

【こども教育課】

- ・小学校3年生から中学校3年生において、「コウノトリ」「ジオパーク」「産業・文化」を共通の課題としたふるさと教育を推進しています。その中で、各校の実態に応じて、スクールインタープリターではありませんが、ふるさとの環境や自然に関するゲストティーチャーを招聘しています。

■「コウノトリ KIDS クラブ」「子どもの野生復帰大作戦」の特色を明確にした PR 方法の工夫の必要性について

【コウノトリ共生課】

- ・コウノトリを軸とした豊岡の自然環境について深く学ぶコウノトリ KIDS は、2017 年度から始まった「ふるさと学習」の補完的役割も担っています。また、単なる体験活動にとどまらず、さまざまな場面で対外的に情報発信を行う機会があり、全国各地の子どもたちと交流を行うなど、子どもたちにとって素晴らしい経験になっています。そうした機会を増やすとともに、活動報告などを行う場を設けることで、コウノトリ KIDS クラブの PR に努めたいと思います。

【生涯学習課】

- ・子どもの野生復帰事業の告知は、各小中学校を通じてチラシ配布を行いました。また、市ホームページ、広報紙による PR も併せて行いました。

目標像⑧「ごみ」

■学校や地域での、ごみ減量の啓発活動の継続の必要性について

■リサイクルの啓発、リサイクル活動の拠点の定期的な周知について

【生活環境課】

- ・豊岡市環境衛生推進協議会、豊岡くらしの会と共催して市内各所でマイバッグ持参運動を実施しま

した。レジ袋を削減してごみ減量の推進を図るとともに、資源を大切に使う意識を高めるために、買い物の際は、買い物袋を持参することを市民に呼びかけました。ごみ減量化については、普段の生活の中における、身近な取組みの積み重ねが大切です。今後も出前講座やイベントなどを活用して日常での当たり前行動につなげられるよう啓発に努めます。

- ・リサイクルを啓発するため、電気式生ごみ処理機の購入費補助や資源ごみ集団回収事業補助金について広報に掲載し、活用促進を図りました。2018年度は電気式生ごみ処理機の購入費補助の利用が24件あり、集団回収は延べ655団体が実施されました。

目標像⑨ 「省エネ」

■市街地循環バス(コバス)や市営バス(イナカー)の引き続きのPRについて

【都市整備課】

- ・市街地循環バス(コバス)については、2018年4月から市北部の集合型商業施設等への乗入れを行うなど、利用者ニーズに合ったルート変更を行いました。併せて市街地イベント等と連携を図り、多くの市民の皆さんに「知って・使って」いただけるよう推進しています。今後も公共交通全体のPRを積極的に行い、一層の利用促進に努めます。

■新たな取組み「エコ事業所宣言」の周知について

【環境経済課】

- ・HPや夢但馬産業フェア等を通じてこの制度をPRするとともに、商工会議所、商工会や金融機関等の支援機関等と連携して事業者に対して周知を行っています。特に、豊岡商工会議所においては、同会議所が策定する「環境アクションプラン」に同制度の推進について明記する予定であり、同会議所と連携した周知活動を強化していきます。

目標像⑩ 「環境経済」

■世界が認めるブランド(ラムサール条約湿地やユネスコ世界ジオパークなど)と豊岡の第一次産業(農林水産物)を結び付けて付加価値を高める取組みについて

【農林水産課】

- ・環境創造型農業を拡大し持続可能なものとするため、コウノトリ野生復帰をシンボルに特別栽培農産物のブランド化に取り組んでいますが、ラムサールエリアやジオパークエリアと結び付けた差別化販売には至っていません。水田決議(RAMSAR-COP10 X.31)への貢献とワイズユースの推進を図るためにも、ラムサール条約への理解の高まりにあわせて、一層の付加価値向上を図っていきます。

第6部 2018年度の環境に関する取組みについて 豊岡市環境審議会の意見 (今後の取組みに向けて)

■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や感想をまとめています。

(1) 「目標とする姿」ごとの取組みについて

目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

山の針葉樹(植林)と広葉樹(自然林)のバランスを保ったり、植林の間伐を適切に行ったり、広葉樹を薪炭材やキノコの原木に使用するなどして、水源涵養や防災機能が維持され、生物多様性が向上するように管理することが大切です。モウソウチク林の管理も必要な時期になっています。

また、持続可能な社会を実現するため、ペレット・薪ストーブ等をより一層普及させたり、朝来バイオマス発電所へチップ原木を供給するなど、森林資源を有効に活用していくための更なる施策を期待します。

昨今、人々が山林に入る機会が減り、境界すら分からない所有者が多くなっていますが、森林環境譲与税等を活用し、山林を適切に管理できる仕組み作りを行う必要があります。

目標像②里山が様々な利用され、関わる人が増えています

防護柵の設置が進んでいるにも関わらず、農林業被害額が増えています。統計に表れない家庭菜園もシカ、イノシシ、サル等の被害を受けており、経済的損失のみならず、生きがいを喪失するなど心身の健康への影響も懸念されます。防護柵や電気柵を適切に使用するため、設置者が定期的に巡視し、草刈りをしたり、壊れた箇所を修繕するなど日頃の点検とメンテナンスを進めることを期待します。

また、有害獣対策で捕獲されたシカ等の命を無駄にせず活用するために、食肉処理施設の整備や、消費につながるジビエマップの作成やペットフードを生産する業者などとの連携を望みます。

過去に里山整備をされたが利用が低迷して、藪に戻ってきている場所があります。神社の森など地域を代表する森も維持するために、大切に利用することが大切です。

目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

学校給食への県内産食材の利用については、政府推奨値を達成していますが、そのことが広く知られていません。市内農産品の生産を後押ししたり、家庭での消費につなげられるよう学校給食で地元の野菜が使われていることを積極的にアピールする必要があります。また、国の目標を達成している現状に満足せず、豊岡市独自のより高い目標を設定することを提案します。今後は、保育園・子ども園の給食に地元の無農薬・減農薬農産物の使用が促進されるような取り組みを期待します。

一方、各地で増え続ける休耕田は、ビオトープ水田に転換するよう働きかけるとともに、大人にも環境学習の場として利用してもらえよう周知していく必要があります。

目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がかきこえてきます

間伐材を取り付けた鋼製漁礁は、漁礁機能の向上と間伐材利用の推進だけでなく、間伐材が腐朽後に自然に還ることから、循環型社会形成への貢献が期待されます。漁礁設置推進の継続が望まれます。

また、丸石河原は子どもたちが楽しく遊べる場所ですが、近づく道が失われているところが多くなりました。草を刈って道を作ったり、河川・海岸の清掃活動を継続・拡大し、子どもたちが遊べる環境の維持や子どもたちに遊びの機会が提供され続けることを期待します。

目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

コウノトリも住める豊かな生態系を維持していくためには、人々の生活とバランスのとれた自然の保全・再生を進め、維持していくことが大切です。

2018年に拡張されたラムサール条約湿地の重要性を周知するとともに、加陽湿地で取り組むフジバカマの再生事業等の活動が広がることを望みます。そのためには、それぞれの地域が自分たちの住む地域の自然の特性を知ることが大切です。

また、外来生物によって豊岡本来の生態系が崩れていますので、影響の著しい外来生物の駆除・防除の取組みが強化されることを望みます。

目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

文化や行事を次の世代につなげていくには、過去の資料が重要です。定期的な調査によって、「豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書」の質と量を高めたり、存続が危ぶまれている行事を広く知ってもらうため、動画で発信するなどの場を作ることを提案します。

また、多くの重要な資料が収蔵できるよう使われなくなった学校や空き教室等を活用することの検討を望みます。

目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

最近、虫に触れない子どもたちが多くなっていますが、学齢期終了までに田んぼや川で遊ぶ機会がないと、ますます苦手になっていきます。学校教育だけでは得られない体験の機会を、地域のボランティアや地域コミュニティと一緒に増やすことを望みます。

また、豊岡の豊かな自然の中にいる生きものの名前やその暮らしが実感できるよう、可視化する取組みを期待します。

目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

ごみの分別収集は20～30年前と比べるとずいぶん進んでいますが、分別収集までした先の処理がどうなっているのかは、市民には十分には伝わっていません。ごみの分別意識を高めるためにも、処理の流れと成果の更なる周知を望みます。

また、風船を飛ばしてイベントを盛り上げるような場面がありますが、合成樹脂を含む石油由来の物質は、自然界では容易に分解されず、多くが数百年以上もの間残り続け、海や陸域の生態系に影響を与え続けます。環境に配慮し使用を控えるなどの意識を持つような啓発が必要です。イベントでの使い捨て容器の回避も喫緊の課題です。

目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

15分以上運動した市民の割合を競う「チャレンジデー」は、多くの市民が意識的に運動に取り組む機会になっています。例えば「省エネの日」「マイバッグの日」のような日を作り、「今日は待機電力を減らしましょう！」「レジ袋は使いません！」といった投げかけの仕組み作りを提案します。

目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

環境経済認定事業者はもちろん、さまざまな地元企業が地域の環境保全に貢献していることをもっと市民や来訪者に周知することを望みます。

インバウンド効果で訪れる外国からの来訪者には、翻訳アプリやQRコード読み取りによる解説表示などの機能を活用し、国際化にも対応することを期待します。

(2) まとめ

第2次環境基本計画の推進2年目にあたる今年度の評価は、「よくがんばりました」が2項目(目標像③⑦)、「この調子でがんばろう」が6項目(目標像②⑤⑥⑧⑨⑩)、「もっとがんばろう」が2項目(目標像①④)でした。昨年度の評価と比べますと、「もっとがんばろう」が1項目減り、「この調子でがんばろう」が1項目増えましたので、全体としてみると諸課題への取組みは、徐々に進展しているように思われます。環境審議会としては、「もっとがんばろう」評価が、なくなるような取組みを切に期待し、提案をおこないました。

目標像①については、間伐未利用材等の活用に関する豊岡市の施策が、ペレット原料から朝来バイオマス発電所への供給に大きく変わりましたので、それにともなったさまざまな取組みを期待します。第2次環境基本計画の大きな特徴は、豊岡市の環境をよりよいものにするために市の面積の8割を占める森林の活用を通じた保全が急務であるという考え方のもと、目標像①②が「山」に関するものになっていることです。そのため、目標像①への取組みに、いっそう注力することが望まれます。

目標像④の評価は、2年連続で「もっとがんばろう」でした。とはいえ、地域住民やボランティアによって市内の河川や海岸の清掃活動が続けられています。このような地道な市民活動は、「川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます」という目標像の実現に向けた基盤になると思われます。

最後にすべての目標像にかかわりますが、近年、外国からの旅行者や居住者が増えつつありますので、今後の市の施策や市民・事業者の活動に、そのような人々を視野に入れることがいっそう求められるでしょう。

2019年12月

豊岡市環境審議会	会 長	山室 敦嗣		
	副会長	雀部 真理		
	委 員	内海 京子	・ 太田垣秀典	・ 岡崎 典子
		日下部昌男	・ 毛戸 勝	・ 島崎 邦雄
		菅村 定昌	・ 土川 忠浩	・ 寺田 正文
		友田 達也	・ 中村 肇	・ 橋本 道江
	山田 博文			

【お願い】

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、皆様のご意見・ご感想や、ご提案・取組み事例の情報などをお寄せください。

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

住 所：〒668 - 8666 豊岡市中央町 2 番 4 号

電 話 番 号：2 1 - 9 0 1 7（直）

F A X 番 号：2 4 - 7 8 0 1

E - m a i l：kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索：